



ロケーションフリー TVボックス

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示してあります。**この取扱説明書をよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



PET-AV

LF-BOX1



警告

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

5～14ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。15～17ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはロケーションフリーカスタマーサポートセンター（裏表紙）に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落したり、キャビネットを破損したとき



- ① TVボックスの電源プラグをコンセントから抜く。
- ② お買い上げ店またはロケーションフリーカスタマーサポートセンター（裏表紙）に修理を依頼する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながる場合があります。



注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



注意



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



プラグをコンセントから抜く

TVボックスのワイヤレス通信について

この機器は2.4GHz帯および5GHz帯の無線周波数帯を使用していますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。この機器と他の無線機器間との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。



この無線機器の使用周波数は2.4GHz帯および5GHz帯を使用します。変調方式として2.4GHzはDS-SSおよびOFDM変調方式、5GHzはOFDM変調方式を採用し、与干渉距離は20mです。



本機の5GHz帯無線LAN周波数は5150～5350 MHz（36, 40, 44, 48, 52, 56, 60, 64ch）に対応しています。

詳細については、<http://www.sony.co.jp/locationfree/QA/>をご覧ください。

ワイヤレス通信に関するご注意

- TVボックスは、床から離れた、安定した場所に設置してください。
- 次のような環境で使用すると、TVボックスとベースステーションとの間で電波が通りにくくなり、通信距離が短くなることがあります。
 - 鉄筋／コンクリート／石の壁や床、床暖房の入った床
 - 鉄製の間仕切りやドア、防火ガラス、金属などの材料を使った家具や電化製品などがTVボックスとベースステーションの間にある場合

<2.4GHz帯の場合>

この機器の使用周波数は2.4GHz帯を含んでいます。この周波数帯では電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
 2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
 3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ロケーションフリー カスタマーサポートセンター（裏表紙）までお問い合わせください。
- 電子レンジ使用中に、2.4GHz帯を使用した場合本機のワイヤレス通信が電子レンジの発する電波の干渉を受け、画像が乱れることがあります。電子レンジから離れた場所で本機を使用してください。電子レンジを使用していないときは、本機は干渉を受けません。
 - 近くで2.4GHz、IEEE802.11b、IEEE802.11g準拠のワイヤレスLANアクセスポイントまたは、無線機器を使用しているとき、電波の干渉を受ける場合があります。

TVボックスのワイヤレス通信について

＜5GHz帯の場合＞

- 5GHz帯無線LANの使用は、電波法により屋内使用に限定されます。
法令により、5GHz帯、IEEE802.11aモードを屋外で使用することは禁止されています。
- 近くで5GHz、IEEE802.11a準拠のワイヤレスLANアクセスポイント、または無線機器を使用しているとき、電波の干渉を受ける場合があります。

この機器には、電波法に基づく認証を受けた無線設備が内蔵されており、証明ラベルは無線設備上に添付されております。

ワイヤレスLANのセキュリティについて

ワイヤレスLANではセキュリティの設定をすることが非常に重要です。セキュリティ対策を施さず、あるいは、ワイヤレスLANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社ではこれによって生じたあらゆる損害に対する責任を負いかねます。

詳細については、

<http://www.sony.co.jp/locationfree/QA/>

をご覧ください。

本機のワイヤレスLANの設定方法は、取扱説明書を参照してください。



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより**死亡や大けが**の原因となります。

雷が鳴りだしたら、本機や付属品に触れない

感電の原因となります。



接触禁止

本機は国内専用です

海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。



指示

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には置かない

火災や感電の原因となることがあります。また、取扱説明書に記されている使用条件以外の環境でのご使用は、火災や感電の原因となることがあります。



禁止

内部に水や異物を入れない

火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐにTVボックスの電源プラグをコンセントから抜き、ロケーションフリーカスタマーサポートセンター（裏表紙）に点検・修理をご依頼ください。



禁止

TVボックスの上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクなど炎が発生しているものを置かない

火災や感電の原因となります。



禁止



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより**死亡や大けが**の原因となります。

内部を開けない

火災や感電、けがの原因となります。

また、本機は、電波法に基づく認証を受けた無線設備が内蔵され、かつ（財）電気通信端末機器審査協会の技術基準適合認定を受けた製品であり、分解および改造を行うと、法律で罰せられることがあります。

内部の点検や修理は、ロケーションフリーカスタマーサポートセンター（裏表紙）にご依頼ください。



分解禁止

ゆるいコンセントに接続しない

電源プラグは、根元までしっかりと差し込んでください。

根元まで差し込んでみがあるコンセントにはつながないでください。発熱して火災の原因となることがあります。電気工事店にコンセントの交換をご依頼ください。



禁止

LANケーブル、電源プラグのコードの配置に注意する

本機に取り付けるLANケーブルや電源プラグのコードが、人が歩く場所にはみ出ていると、足をひっかけるなどして、けがの原因になったり、本機の損傷の原因になったりします。



指示

電源プラグやACパワーアダプターのコードを振り回さない

人やガラスなどに当たってけがをすることがあります。



禁止

お子さまの手の届かない場所に設置する

はずれた部品を飲み込むなど、思わぬ事故の原因になり危険です。



注意



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより**死亡や大けが**の原因となります。

安定した場所に設置する

TVボックスは、ぐらついた台の上や傾いたところなどに置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



指示

壁から10cm以上離して設置する



指示

TVボックスにスタンドを取り付ける

TVボックスを設置する際は、必ずスタンドを取り付けてください。



指示

TVボックスの上にものを置かない

落ちてけがの原因となることがあります。



禁止

機器に近いコンセントに電源プラグを接続する

設置の際には、使用中に容易に抜き差しできる、機器に近いコンセントに電源プラグを接続してください。万一、異常がおきた際には、電源プラグを抜いてください。



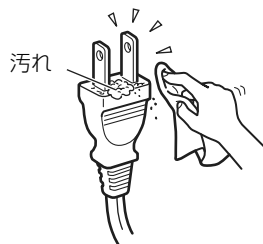
指示



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより**死亡や大けが**の原因となります。

電源プラグは定期的にお手入れを

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを取ってください。



お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

電源プラグは、他機器との接続が終わってからつなぐ

コンセントを差したまま接続すると、感電の原因となることがあります。また、電源コードを抜くときは、まず壁側コンセントから、プラグをもって抜いてください。

I/⏻(電源)ランプが緑色に点灯、または赤色に点滅している状態で、電源プラグ等の抜き差しをしない

I/⏻(電源)ランプが緑色に点灯、または赤色に点滅している状態で、電源プラグの抜き差しや他機器との接続を行わないでください。誤動作することがあります。



禁止

指定のACパワーアダプター以外は使用しない

火災や感電の原因となります。



禁止



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより**死亡や大けが**の原因となります。

TVボックスを移動させるときは、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだまま移動させると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

運ぶときは、衝撃を与えないようにしてください。



プラグをコンセントから抜く

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く

安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



プラグをコンセントから抜く

TVボックスを布や布団などでおおった状態で使用しない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。



禁止

ACパワーアダプターを誤った方法で使用しない

ACパワーアダプターを誤った方法で使用する、熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

以下の方法を必ず守って、本機をお使いください。

- ACパワーアダプターのまわりに物を置かない。
- ACパワーアダプターを布などでおおわない。
- 2つ以上のACパワーアダプターを重ねない。
- ACパワーアダプターを箱などに入れない。



禁止

ACパワーアダプターは、せまい空間での使用を避けて、熱がこもらないようにする



禁止



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより**死亡や大けが**の原因となります。

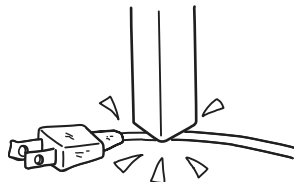
電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
 - 電源コードに重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
 - 電源コードを熱器具に近づけない。加熱しない。
 - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはロケーションフリーカスタマーサポートセンターに交換をご依頼ください。



禁止



たこ足配線をしない。

火災や感電の原因となることがあります。



禁止

屋外や窓際で使用しない

雨水などにさらされ、火災や感電の原因となることがあります。また、直射日光を受けると、本機が熱を持ち、故障することがあります。



禁止



下記の注意事項を守らないと**医療機器**などを**誤作動**させるおそれがあり事故の原因となります。

本機を医療機関に設置しない

医療機器の誤動作の原因となることがあります。



禁止



下記の注意事項を守らないと**医療機器**などを**誤作動**させるおそれがあり事故の原因となります。

ペースメーカーなどの近くで使用しない

ペースメーカーなどの医療電気機器を使用中に、本機を近づけないでください。医療電気機器が誤動作するおそれがあります。



禁止

本機を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、使用を中止する

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品に損害**を与えたりすることがあります。

直射日光のあたる場所や熱器具の近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。



注意

コネクターはきちんと接続する

- コネクターの内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むと、ピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。



注意



注意

下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品に損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグ、AC パワーアダプターおよびTVボックスにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

TVボックスの通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。TVボックスを壁に近づけすぎると、壁などにホコリが付着し、黒くなることがあります。風通しをよくするために、スタンドを取り付け、縦置きにし、壁から10cm以上離して置いてください。

- あお向け、逆さまにしない。
- 棚や押入の中に置かない。
- じゅうたんや布団の上に置かない。
- ホットカーペットの上に置かない。
- 布をかけない。



禁止

TVボックスに長時間触れない

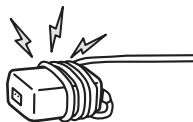
TVボックスに手などを触れたままにしないでください。温度が上がり、低温やけどの原因となることがあります。



禁止

AC パワーアダプターのコードや電源コードをAC パワーアダプターに巻き付けない

断線や故障の原因となることがあります。



禁止

AC パワーアダプター本体やコード類の接点部に他の金属が触れないようにする

ショートすることがあります。



禁止



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

ACパワーアダプターを海外旅行者用の「電子式変圧器」
などに接続しない

発熱や故障の原因となります。



禁止

TVボックスに強い衝撃を与えない

故障の原因となることがあります。



禁止



リモコンの電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

警告

- ボタン型リチウム電池は幼児の手の届かないところに置く。
万一飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- 雨がかかる場所、または水気のある場所で使用しない。
- 指定された種類の電池を使用する。

注意

-  と  の向きを正しく入れる。
- 電池を使い切ったとき、長時間使用しないときは、取り出しておく。

もし電池の液が漏れたときは、電池入れの液をよくふきとってから、新しい電池を入れてください。万一、液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。

本機の発熱についてのご注意

使用中にTVボックスやACパワーアダプターが熱くなることがあります

- 本機の動作時の電流によって発熱していますが、故障ではありません。
- 本機は使用状況により熱くなることがあります。

異常に熱くなったときは、本機の電源を切り、ACパワーアダプターの電源コードを抜いてください。次に、ロケーションフリーカスタマーサポートセンター（裏表紙）に修理をご依頼ください。

使用上のご注意

落とさないでください

本機に強いショックを与えないでください。故障の原因となることがあります。

取り扱いについて

- 本機を雨または湿気にさらさないでください。
TVボックスの隙間から内部に水が入り込み、故障の原因となります。
- 必ず、付属のACパワーアダプターを使用して電源につないでください。
- 本機を開けたり分解しないでください。
- 電波法に基づく認証を受けた無線設備が内蔵されており、分解および改造を行うと、法律で罰せられることがあります。
- (財)電気通信端末機器審査協会より技術基準適合認定を受けており、分解および改造を行うと、法律で罰せられることがあります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。
この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信妨害を引き起こすことがあります。取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

通信不良によるお客様の損害につきまして、当社は一切その責任を負いかねます。
通信内容が漏れたことに対しても、当社は一切その責任を負いかねます。

置き場所について

- 次のような場所に置かないでください。
 - 異常に高温になる場所：炎天下や夏の窓を閉め切った自動車内はとくに高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
 - 直射日光のあたる場所、熱器具の近くなど、温度の高い場所：変形したり、故障したりすることがあります。
 - 人が通行するような場所：電源コードや信号ケーブルは、足に引っかかると製品の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。人が踏みんだり、引っかけたりするようなおそれのある場所を避け、十分に注意して接続・配置してください。
 - 濡れた場所
 - 乗り物の中や船舶の中などの振動の多い場所：移動中の振動により、本機が転倒したり落下したりして、けがの原因となることがあります。
 - 強力な磁気のある場所
 - 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所：海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることがあります。
 - ぐらついた台の上や傾いた場所
 - 高い場所：落下してけがの原因になります。
 - 風呂場など、湿気の多い場所
- 本機の底面よりも、広くて水平で丈夫な場所に置いてください。

使用上のご注意

- ワイヤレスでご使用の場合は、TVボックスとベースステーションはできるだけ床から離し、TVボックスとベースステーションの間に障害物の少ない場所を選んで設置してください。
- 安定した場所に設置してください。不安定な場所に置くと、落下してけがの原因になります。
- 誤って足で踏んだり、上から物を落としたりすることがないような場所に設置してください。
- ゴムやプラスチック製品など、熱に弱いものの上に置いて使用しないでください。本機の熱により、変形、変色の原因になることがあります。
- テレビやラジオの近くで使うと、映像の乱れや雑音の原因となることがあります。このような場合は、テレビやラジオから離れた場所でご使用ください。
- お子さまの手の届かない場所に設置してください。はずれた部品を飲み込むなど、思わぬ事故の原因になり、危険です。
- 本機を医療機関に設置してご使用しないでください。医療機器の誤動作の原因となることがあります。
- 本機と同じ無線周波数を使っている他の無線機器を同時にご使用すると、転送速度の低下や伝送エラーが発生することがあります。
- 2.4GHz帯を使用した場合、電子レンジご使用中は、本機のワイヤレス通信が電子レンジの発する電波の干渉を受け、画像が乱れることがあります。電子レンジから離れた場所でご使用ください。電子レンジを使用していないときは本機が電子レンジの干渉を受けることはありません。

動画表示について

テレビやビデオを見ているとき、表示の一部がブロック状に見えることがありますが、画像処理によるもので、故障ではありません。

ケーブルについて

本機に接続するケーブルは、電磁界妨害防止のため、3 m以下のものをお使いください。

結露について

寒いときに暖房をつけた直後など、本機の内部の部品に露（水滴）がつき、正しく動作しないことがあります。電源プラグを電源コンセントから抜いて、約2、3時間放置してください。正常に動作するようになります。

お手入れ

- お手入れをする前に、必ずTVボックスの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 乾いた柔らかい布、または水をかたくしぼった布で軽く拭いてください。
- アルコール、シンナー、ベンジンなどは使わないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、色落ちや変色する場合がありますので、ご注意ください。
- 殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 液体状の洗剤などはご使用しないでください。本機の内部に入って、故障の原因となることがあります。

搬送時のご注意

- 本機を運ぶときは、本機に接続されているケーブルなどをすべてはずしてください。

使用上のご注意

落としたりするとけがや故障の原因となることがあります。

- 修理や引っ越しなどで本機を運ぶ場合は、お買い上げ時に本機が入っていた箱をご使用ください。

廃棄するときは

- 一般の廃棄物と一緒にしないでください。
ごみ廃棄場で処分されるごみの中に本機を捨てないでください。
- ボタン型リチウム電池を廃棄するときは、地方自治体の条例、または規則にしたがってください。

目次

ロケーションフリーとは？	20
ロケーションフリー TVボックスとは？	21



各部の名前とはたらき

23

TVボックス.....	23
リモコン	25



ロケーションフリー TVボックスの準備

26

準備1 箱の中身を確認する	26
準備2 TVボックスにスタンドを取り付ける.....	29
準備3 TVボックスとテレビを接続する	30
準備4 TVボックスの電源を入れる	31
準備5 ベースステーションをセットアップモード にする	33
準備6 TVボックスをベースステーションに登録する	35
準備7 テレビ/ビデオの設定を行う	37
オプションボタンでテレビやビデオを設定する	42
設定画面でTVボックスを設定する	43
現在の状態を画面に表示する	44
リモコンで各社のテレビを操作する	45



ベースステーションにつないだテレビ/ビデオの映像を見る

47

ベースステーションからの映像を見る	47
ベースステーションからの入力信号を切り換える	48
テレビを見る	49
ビデオを見る	50



便利な機能と設定..... 54

音声を切り換える.....	54
映像のレート进行调整する	54
チャンネルリストや画面リモコンの表示位置を変える ...	55
画質を切り換える.....	56
NetAVに接続する/切断する	57
ソフトウェアキーボードを使う	58



ロケーションフリー TVボックスの設定..... 60

TVボックスとベースステーションの接続を確認する	60
ネットワークに接続するための設定	65
インターネット経由で機器登録する場合の設定.....	73
ベースステーション登録リストを編集する	75
その他の設定.....	77
基本設定	80



その他..... 82

自己診断表示について	82
故障かな?と思ったら	83
保証書とアフターサービス	90
主な仕様	91
索引	92
商標などについて.....	94
ソフトウェアに関する重要なお知らせ	95

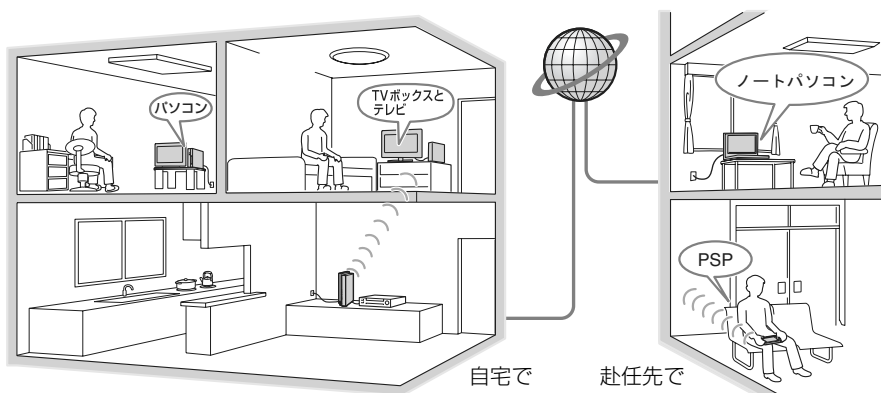


ちょっと一言

取扱説明書内の画面イラストはイメージです。

ロケーションフリーとは？

「ロケーションフリー」を使えば、リビングで見ていたテレビや撮りためた映像などのコンテンツを、さまざまな機器で、リビング以外の場所でも楽しめます。テレビアンテナやDVDレコーダーなどをつないだベースステーションから、ワイヤレスLANやインターネット経由で、パソコンやPSP®、ロケーションフリー TVボックスなどの機器へ映像を送信することができます。また、離れた場所からDVDレコーダーの録画/再生/停止のような操作をすることもできます。

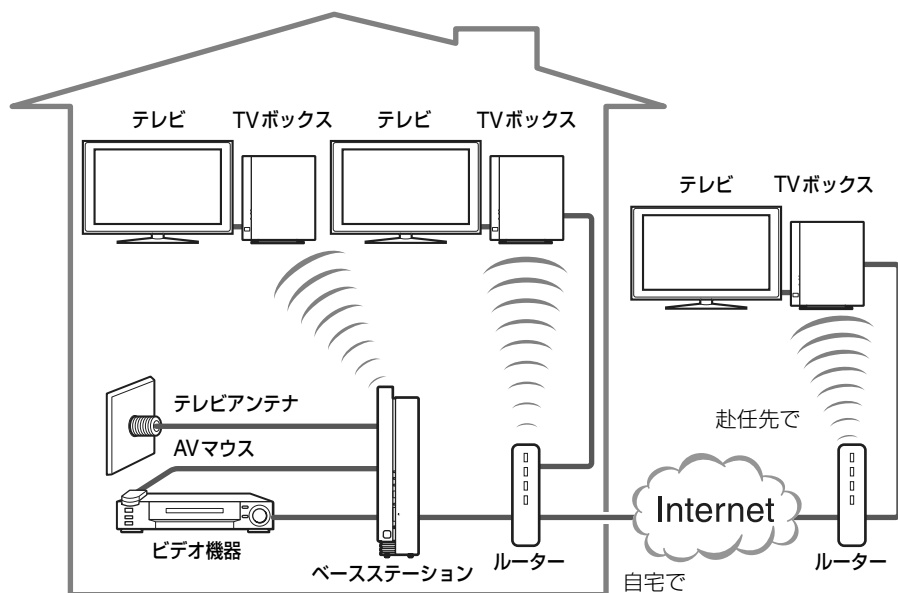


ロケーションフリー TVボックスとは？

ロケーションフリー TVボックスを使えば、リビングで見ていたテレビや撮りためた映像などのコンテンツを、リビング以外の場所にあるテレビでも楽しむことができます。

リビングなどにベースステーションを置き、家の中では、ワイヤレスや有線などの家庭内LANを使って、TVボックスに接続されたリビング以外の場所にあるテレビで、リビングと同じ映像を楽しむことができます。

また、赴任先などの別の場所にあるテレビに接続されたTVボックスから、インターネットを経由して自宅のベースステーションに接続し、自宅と同じテレビ番組やDVDレコーダーの映像を、赴任先のテレビで視聴することができます。



家の中では

TVボックスとベースステーションの間の通信は、2つのモード（「画質優先」と「通信優先」）が利用できます。

赴任先などインターネットを経由した場合は

TVボックスとベースステーションの間の通信は、NetAVでの通信となります。

画質優先とは(☞ 56ページ)

MPEG2形式で、標準テレビ信号 (SD) と同等の画質で映像が表示されます。

通信優先とは(☞ 56ページ)

TVボックスとベースステーションの距離が離れているときや、障害物があるとき、またはコードレス電話や電子レンジを近くで使っているときなど、ワイヤレス通信が電波の干渉を受けて、画像が映らなかったり、映像がひんぱんに止まってしまうことがあります。その場合は、通信優先を選ぶことにより、ワイヤレス通信の状態が良くなり、映像が見やすくなる場合があります。

NetAVとは

NetAVとは、ネットワーク経由でベースステーションの映像を受信する方法の1つです。NetAVを利用すると、家の中だけでなく、例えば赴任先のブロードバンド回線や無線LANから、インターネットを経由して自宅のテレビやビデオを視聴することができます。

ちょっと一言

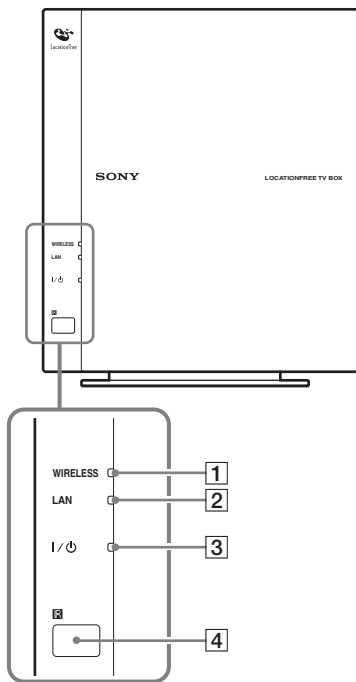
- コピー防止信号がかけられたビデオ、DVDなどのソフトによっては、視聴できない場合があります。
- NetAV機能を使用する場合、上り下りの実効速度300 kbps以上のブロードバンド回線を推奨します。
- プロキシサーバー経由では、NetAVはできません。

ご注意

- TVボックスは2.4 GHz/5 GHz帯のワイヤレス通信を使用します。ワイヤレスLAN機器や電子レンジのように周囲に電波を出す機器があったり、壁や床などの材質によっては、通信が不安定になることもあります。また、医療機器などのそばでは利用しないようにしてください。詳しくは、「安全のために」の「ワイヤレス通信に関するご注意」(☞ 3ページ)をご覧ください。
- 使用するときには常に、自宅にあるベースステーションやルーター、接続している機器の電源を入れておく必要があります。
- NetAV機能は、個人で楽しむ目的以外では使用できません。
- 5 GHz帯は5150～5350 MHz (W52[36/40/44/48ch]、W53[52/56/60/64ch]) に対応しています。詳しくは、「安全のために」の「TVボックスのワイヤレス通信について」(☞ 3ページ)をご覧ください。
- ベースステーションのワイヤレス設定を2.4GHzから5GHzに変更することで、ワイヤレスの通信状態が改善する場合があります (☞ 80ページ)。

TVボックス

TVボックス正面



① WIRELESS (ワイヤレスLAN) ランプ (㊦ 36、73ページ)

ワイヤレス通信の状態を示します。

オレンジ色または緑色点滅：ワイヤレスは有効に設定されていますが、ベースステーションまたはワイヤレスLANのアクセスポイントと通信していません（電波は出ています）。

オレンジ色点灯：5 GHzで通信しています。

緑色点灯：2.4 GHzで通信しています。
消灯：電波は出ていません。

② LAN (有線LAN) ランプ (㊦ 36、73ページ)

有線LANへの接続状態を示します。

緑色点灯：接続しています。

なお、データの送受信中は速く点滅します。

消灯：接続していません。

③ I/O (電源) ランプ (㊦ 32、82ページ)

緑色：電源が入っています。

赤色：電源スタンバイ状態です。リモコンのTVボックス用電源ボタンを押すと、電源が入ります。

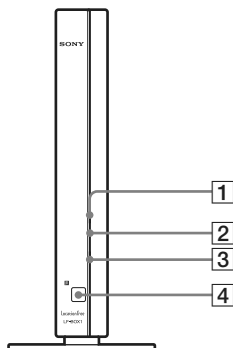
赤色点滅：異常が生じた可能性があります。

消灯：電源コードがつながっていません。

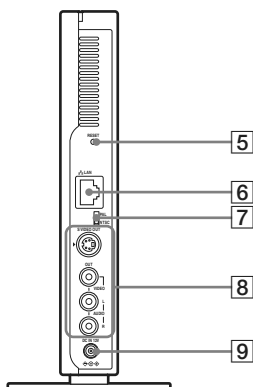
④ リモコン受光部 (㊦ 27、53ページ)

リモコン受光部は、TVボックス正面/左側面の両方からお使いいただけます。

TVボックス左側面



TVボックス右側面



⑤ リセットボタン

TVボックスを再起動します。

⑥ LAN端子

LANケーブルをつなぎます。

⑦ PAL/NTSC切換スイッチ

ビデオ出力信号をPAL方式またはNTSC方式に切り換えます。お使いのテレビがPAL方式の場合は、切り換えてください。日本のテレビは、NTSC方式です。

PAL/NTSC切換スイッチを操作する場合は、TVボックスが電源スタンバイ（**I/⏻**（電源）ランプが赤色に点灯）、または電源コードがつながっていない状態で行ってください。

⑧ ビデオ出力（S映像・映像・音声）端子（☞ 30ページ）

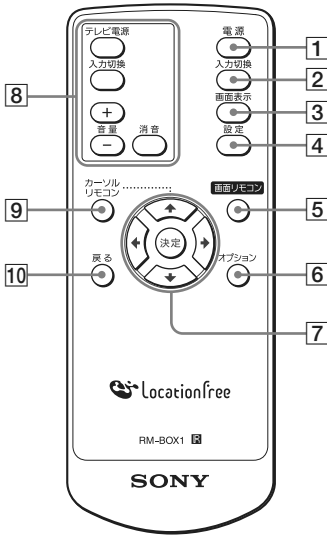
S映像コードと音声コード、または音声・映像コードをつなぎます。

⑨ DC IN端子（☞ 31ページ）

付属のACパワーアダプターをつなぎます。

リモコン

リモコン



1 電源ボタン (㊦ 31、47ページ)

TVボックスの電源の入/切を行います。
電源が入ると、I/⏻ (電源) ランプが緑色に点灯します。電源ボタンを押して、電源を切ったときは、I/⏻ (電源) ランプが赤色に点灯します (電源スタンバイ)。

2 入力切替ボタン (㊦ 48ページ)

ベースステーションの入力 (テレビ/ビデオ入力1/ビデオ入力2) を切り換えます。

3 画面表示ボタン (㊦ 44ページ)

TVボックスの入力状態や接続状態が画面上部に、操作ガイドが画面下部に表示されます。

4 設定ボタン (㊦ 43ページ)

設定画面を表示します。

5 画面リモコンボタン (㊦ 49、50ページ)

テレビを見ているときはチャンネルリストを、ビデオ入力でビデオやDVDを見ているときは画面リモコンを表示します。

6 オプションボタン (㊦ 42ページ)

オプション画面を表示します。オプション画面では、映像や音声を調整したり、ベースステーションに接続/切断したりすることができます。

7 ㊦/㊧/㊨/㊩/決定ボタン (㊦ 28ページ)

画面に表示された設定画面やチャンネルリスト、画面リモコンなどを操作します。
㊦/㊧/㊨/㊩ ボタンで項目を選び、決定ボタンを押して決定します。

8 テレビ操作ボタン (㊦ 45ページ)

このリモコンを使って、TVボックスにつないだテレビの基本的な操作ができます。ソニー以外のメーカーのテレビを操作するときは、「リモコンで各社のテレビを操作する」(㊦ 45ページ) をご覧ください。

テレビ電源ボタン

TVボックスにつないだテレビの電源の入/切を行います。

入力切替ボタン

テレビの入力を切り換えます。

音量+/- ボタン

テレビのスピーカーの音量を調節します。

消音ボタン

テレビのスピーカーからの音を消します。

9 カースルリモコンボタン (㊦ 50ページ)

カースルリモコンを表示します。ベースステーションにつないだ外部入力機器が表示する番組表やDVDのタイトル画面などを、㊦/㊧/㊨/㊩/決定ボタンを使って直接操作できます。

10 戻るボタン

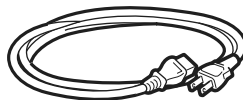
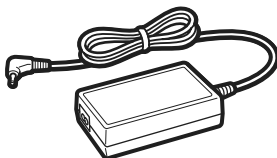
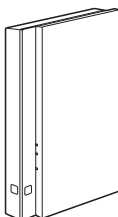
1つ前の画面に戻ります。

準備1 箱の中身を確認める

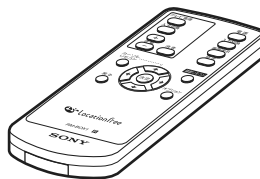
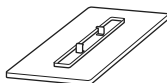
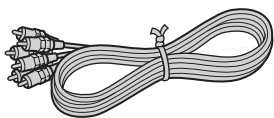
箱を開けたら、次の物がそろっているか確認してください。

() 内は個数を表します。

- ロケーションフリー TVボックス LF-BOX1 (1)
- ACパワーアダプター (1)
- 電源コード (1)



- 映像・音声コード (1)
- スタンド (1)
- リモコン RM-BOX1 (1)



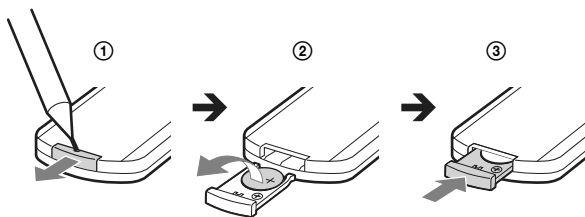
- 取扱説明書 (1)
- かんたん準備ガイド (1)
- 「使用上のご注意」シール (1)
- 保証書 (1)

リモコンの使いかた

- お使いになる前に、透明なシートを引き出してください。シートをはさんだままではご使用になれません。



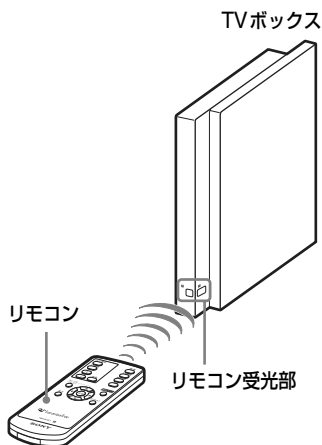
- 電池を交換するときは、ボタン型リチウム電池（CR2025）をお使いください。



- ① ペンなどの先を穴に差し込んで、電池トレイを引き出す。
- ② 電池を交換する。
- ③ 電池トレイを戻す。

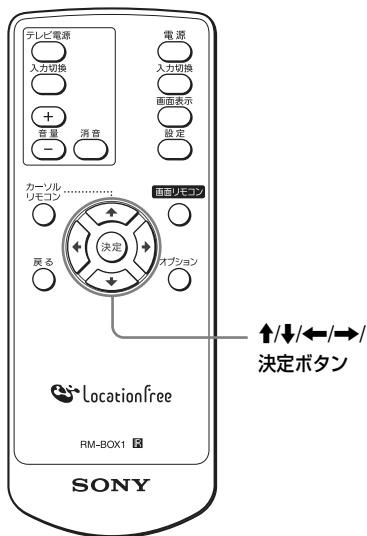
リモコンで操作するときは

TVボックスのリモコン受光部に向けて、リモコンのボタンを押すと、テレビに表示されるTVボックスの画面を操作できます。



TVボックスを操作する

テレビに表示される、TVボックスの画面（オプション画面や設定画面、テレビのチャンネルリスト、ビデオ入力のリモコンなど）を操作するときは、リモコンの $\uparrow/\downarrow/\leftarrow/\rightarrow$ /決定ボタンを使います。



2 決定ボタンを押す。

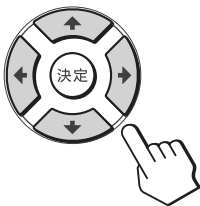


選んでいる項目が、下記のように決定されます。

- 項目を選んだときは、次の画面が表示されたり、チェックボックスにチェックがついたりします。
- チャンネルリストのときは、選んだチャンネルが画面に表示されます（ $\text{\textcircled{R}}$ 49ページ）。
- 画面リモコンのときは、ベースステーションにつないだビデオやDVDが、選んだボタンで操作できます（ $\text{\textcircled{R}}$ 50ページ）。

1 $\uparrow/\downarrow/\leftarrow/\rightarrow$ ボタンを押して、項目を選ぶ。

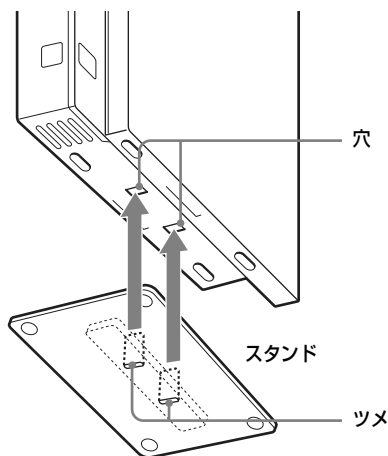
画面上のカーソルが移動します。



準備2 TVボックスにスタンドを取り付ける

TVボックスを設置したときに安定するように、付属のスタンドを取り付けて使用してください。

.....
スタンドのツメをTVボックス底面の穴に差し込んで、固定する。



.....
ご注意

TVボックスを運ぶときはスタンド部分だけでなく、本体と一緒に持ってください。スタンド部分だけを持つと、スタンドがはずれる場合があります。

準備3 TVボックスとテレビを接続する

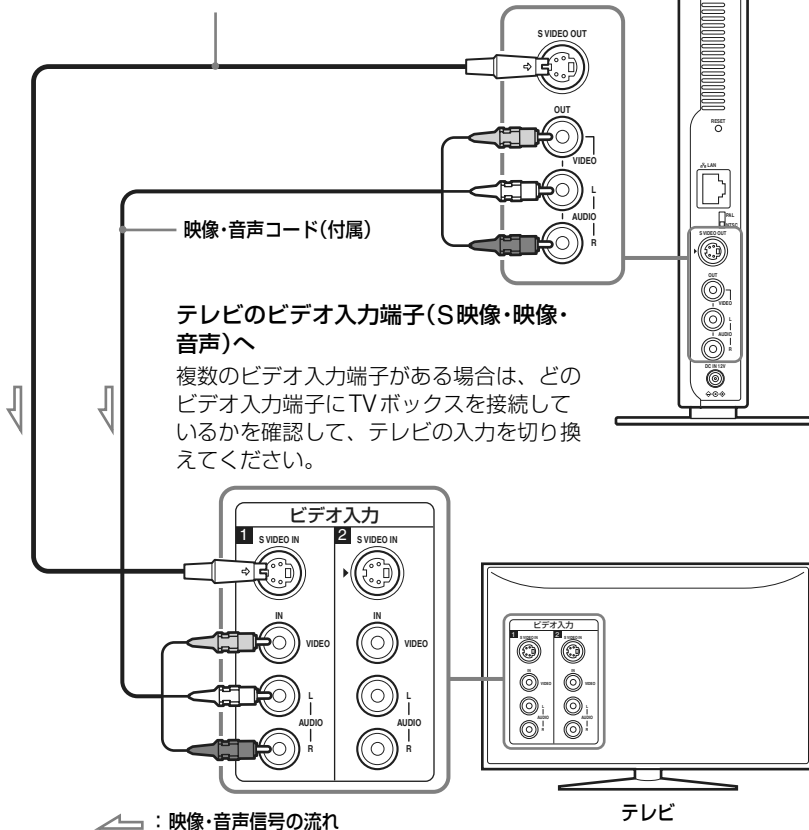
以下の図を参照して、TVボックスとテレビを接続してください。

S映像コード(別売り)

テレビにS映像入力端子があるときは、映像プラグをはずして、別売りのS映像コード(YC-10Vなど)で接続すると、よりきれいな映像が楽しめます。

ビデオ出力端子 (S映像・映像・音声)へ


TVボックス右側面

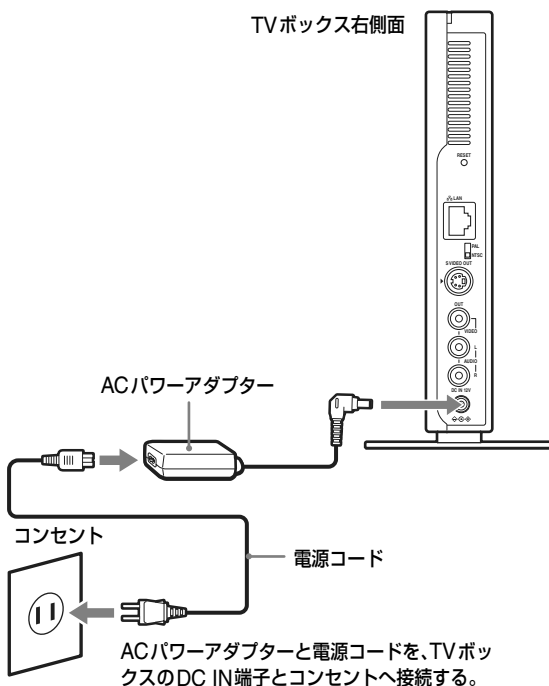


準備4 TVボックスの電源を入れる

1 TVボックスに電源コードをつなぐ。

すべての配線が終わってから、電源コードをつなぎます。

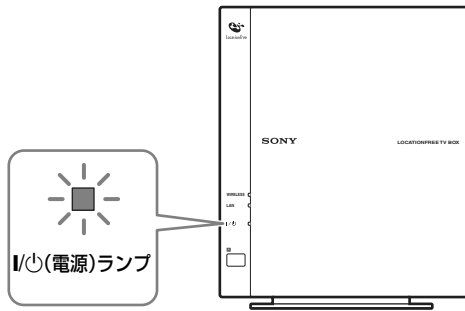
はじめてTVボックスに電源コードをつないだときは、手順2（ 32ページ）を行わなくても自動的にTVボックスの電源が入り、I/O（電源）ランプが緑色に点灯します。



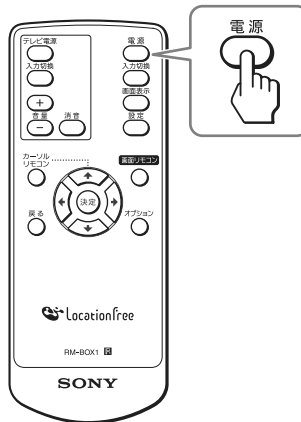
で注意

TVボックスに付属のACパワーアダプターを使用してください。

TVボックスのI/⏻（電源）ランプが緑色に点灯します。



-
- 2** TVボックスのI/⏻(電源)ランプが赤色に点灯している場合は、リモコンの電源ボタンを押して電源を入れる。



-
- 3** TVボックスを接続したテレビの電源を入れる。

-
- 4** テレビにTVボックスの画面が映るように、テレビの入力を「ビデオ」などに切り換える。

TVボックスの画面が表示されます。

.....

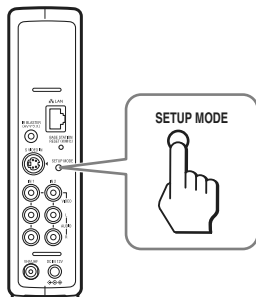
準備5 ベースステーションをセットアップモードにする

TVボックスとベースステーションの接続については、「TVボックスとベースステーションの接続を確認する」(㊦ 60ページ)をご覧ください。遠隔地からインターネット経由でTVボックスをベースステーションに登録する場合は、準備5を行う必要はありません。「準備6 TVボックスをベースステーションに登録する」(㊦ 35ページ)に進んでください。

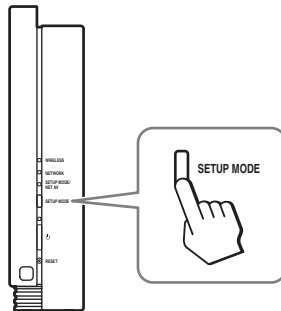
ベースステーションの電源が入った状態で、ベースステーションのSETUP MODE(セットアップモード)ボタンを押す。

LF-PK1をお使いの場合は、SETUP MODE (セットアップモード) ボタンを、セットアップモードランプが点滅するまで押し続けてください。

LF-PK1 背面

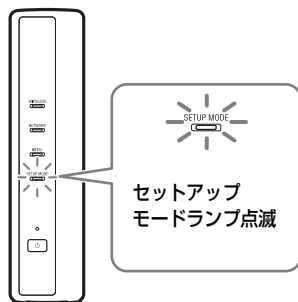


LF-PK20 正面

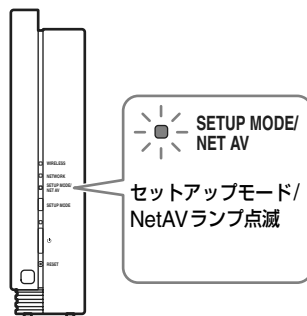


セットアップモードランプがオレンジ色で点滅します。

LF-PK1正面



LF-PK20正面



ご注意

- LF-PK1をお使いの場合は、最新版のソフトウェアにバージョンアップが必要です。バージョンアップの方法は、LF-PK1の取扱説明書をご覧ください。また、バージョンアップについて、詳しくは <http://www.sony.co.jp/locationfree/QA/> をご覧ください。
- セットアップモードは5分後に終了します。その間に、「準備6 TVボックスをベースステーションに登録する」(☞ 35ページ)を行ってください。

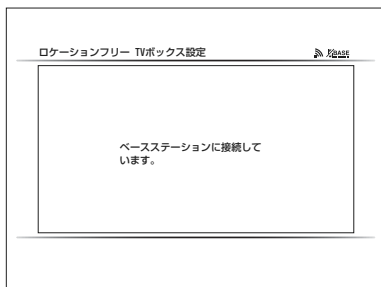
準備6 TVボックスを ベースステーション に登録する

はじめてTVボックスの電源を入れると、TVボックスをベースステーションに登録するための画面が表示されます。画面の指示にしたがって、設定を行ってください。

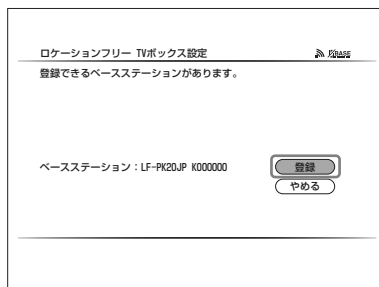
- 1 [開始]が選ばれていることを確認して、決定ボタンを押す。



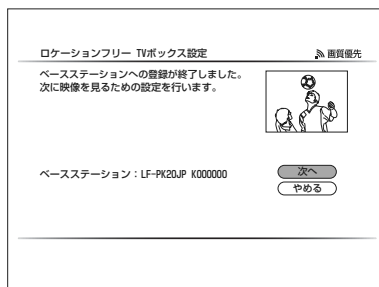
自動的に登録できるベースステーションを、検索して表示します。



- 2 ↓/↑ボタンで[登録]を選んで、決定ボタンを押す。



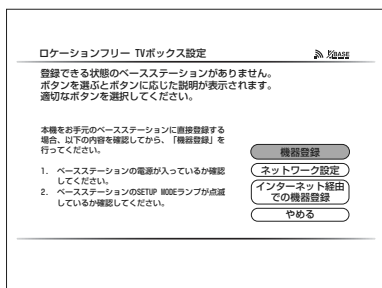
- 3 ベースステーションへの登録が終了し、映像が表示されます。



引き続きテレビ/ビデオの設定を行います。↑/↓ボタンで[次へ]を選んで、決定ボタンを押してください。テレビ/ビデオの設定について、詳しくは「準備7 テレビ/ビデオの設定を行う」(P. 37ページ)をご覧ください。

ベースステーションが見つからなかった場合は

下記の画面が表示されます。



ベースステーションのセットアップモードランプが点滅しているか確認してください（☞ 34ページ）。また、TVボックスのWIRELESS（ワイヤレスLAN）ランプ、またはLAN（有線LAN）ランプが点灯しているかを確認してから、**↑/↓**ボタンで「機器登録」を選んで、決定ボタンを押して、もう1度設定をやり直してください。

それでもベースステーションが見つからなかったときは

「TVボックスとベースステーションの接続を確認する」（☞ 60ページ）で接続を確認して、それぞれの場合に合わせて、**↑/↓**ボタンで各項目を選んで、決定ボタンを押してください。

ベースステーションとルーター経由で接続する場合は

[ネットワーク設定]を選んで、「ネットワークに接続するための設定」（☞ 65ページ）を行ってください。ワイヤレスでルーターに接続する場合は、「アクセスポイントに接続するための設定をする」（☞ 68ページ）も行う必要があります。

遠隔地からインターネット経由で接続する場合は

[インターネット経由での機器登録]を選んで、「インターネット経由で機器登録する場合の設定」（☞ 73ページ）を行ってください。

設定を中止する場合は

[やめる]を選ぶと、設定が中止されません。

ちょっと一言

TVボックスのベースステーションへの登録が終わるまでは、TVボックスの電源を入れるたびに35ページの手順1の画面が表示されます。

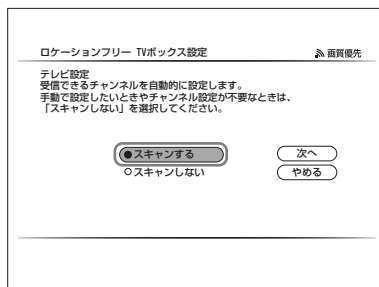
準備7 テレビ/ビデオの 設定を行う

テレビチャンネルや画面リモコンの設定をします。

チャンネルは自動設定されます。必要に応じて手動で設定し直すこともできます (㊦ 40ページ)。

また、ベースステーションにつないだビデオやDVDなどの外部入力機器を画面リモコンで操作するための設定を行います。ビデオやDVDに付属のリモコンを使って、直接操作するように設定することもできます。各機器やAVマウスとベースステーションの接続については、ベースステーションの取扱説明書をご覧ください。

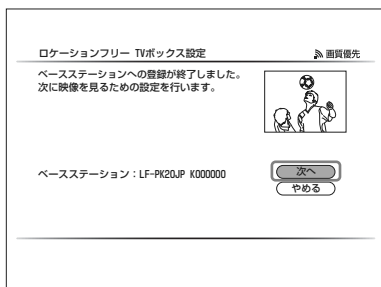
2 ↑/↓ボタンで[スキャンする]を選んで、決定ボタンを押す。



テレビのチャンネルの自動設定
(チャンネルスキャン)を行わない
ときは

↑/↓ ボタンで[スキャンしない]を選んで、決定ボタンを押してください。

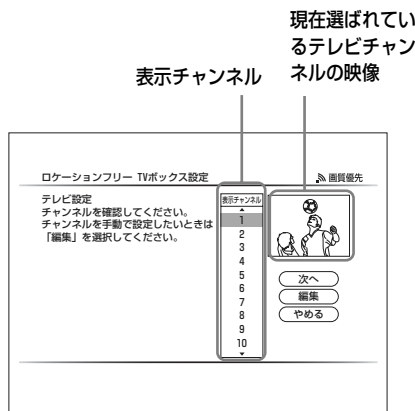
1 「準備6 TVボックスをベースステーションに登録する」の手順3 (㊦ 35ページ)で、↑/↓ボタンで [次へ]を選んで、決定ボタンを押す。



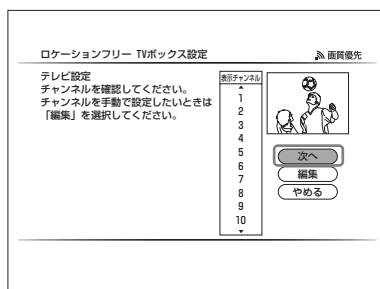
3 ↑/↓/←/→ ボタンで[次へ]を選んで、決定ボタンを押す。

テレビのチャンネルの自動設定（チャンネルスキャン）が始まります。チャンネルスキャンを中断するときは、戻るボタンを押してください。

チャンネルスキャンが終わると、下記の画面が表示されます。



4 ←/→ ボタンで[次へ]を選んで、決定ボタンを押す。



「ビデオ入力1（リモコン1）の設定」画面が表示されます。

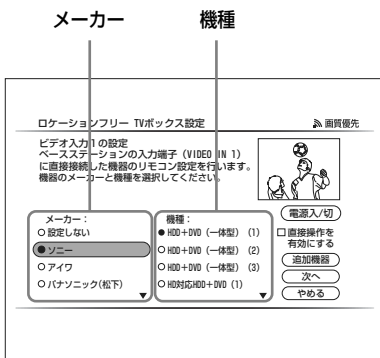
💡 ちょっと一言

ベースステーションに外部入力機器を接続していない場合は、手順8（🔍 40ページ）の画面になるまで[次へ]を選んで設定手順をとばしてください。手順5～7の設定（ビデオ入力1/2設定）については、「基本設定」画面を使って、あとから設定を行うこともできます（🔍 80ページ）。

💡 ちょっと一言

- 表示チャンネルの順番どおりに、チャンネルリストが表示されます。
- [編集]を選ぶと、テレビチャンネルを手動で設定し直すこともできます。見ないチャンネルを消去する場合は、手動でテレビチャンネル設定を変更してください。詳しくは、「チャンネル設定を変更する」（🔍 40ページ）をご覧ください。

5 ↑/↓/←/→ ボタンでメーカーと機種名を選んで、決定ボタンを押す。



ベースステーションのビデオ入力1につないだ外部入力機器のメーカーと機種を選びます。

メーカーと機種を選んだら、↑/↓ボタンで [電源入/切] を選んで、決定ボタンを押して、正しく設定されているかどうか確認してください。

[電源入/切] を選び、決定ボタンを押してから映像が表示されるまで数秒かかります。そのままお待ちください。設定が正しければ、[電源入/切] を選ぶたびに、ベースステーションにつないだ機器の電源が入/切します。

[電源入/切] を選んでもつないだ外部入力機器の電源が入/切しない場合は、メーカーや機種が正しく選ばれているかどうか確認してください。

DVD (1)、(2)、(3) のように、同じ機種が複数ある場合は、それぞれの [電源入/切] を確認してください。

画面リモコンの操作については、「画面リモコンで操作する」(P. 50 ページ) をご覧ください。

ひとつのビデオ入力に2つのリモコンを設定するとき

外部入力機器 (レコーダーなど) の入力端子に、別の外部入力機器 (CSチューナーなど) をつないでいるときは、それぞれのリモコンを設定できます。↑/↓/←/→ ボタンで [追加機器] を選んで、決定ボタンを押すと、追加機器の設定画面が表示されます。

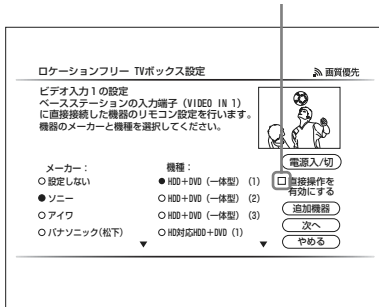
💡 ちょっと一言

アイワ製のDVDプレイヤー、DVD + VHS (一体型)、ビデオデッキの一部の機種については、メーカー名をソニーまたはその他に設定するものもあります。動作確認済み機種については、ロケーションフリーのホームページの「Q & A」(<http://www.sony.co.jp/locationfree/QA/>) をご覧ください。

6 ビデオやDVDなどのリモコンを使って、直接操作するように設定するときは、↑/↓/←/→ ボタンで [直接操作を有効にする] を選んで、決定ボタンを押す。

画面リモコンを設定して、本機に付属のリモコンでビデオやDVDを操作するときは、この手順を行う必要はありません。手順7へ進んでください。

このチェックボックスを選んで、チェックを付けます。



ビデオやDVDなどの外部入力機器に付属のリモコンでの操作については、「ビデオやDVDに付属のリモコンで直接操作する」(㊦ 53ページ)をご覧ください。

💡 ちょっと一言

手順5で設定した外部入力機器のメーカーや機器によっては、[直接操作を有効にする]のチェックボックスにチェックを付けられないものがあります。

7 ↑/↓/←/→ ボタンで[次へ]を選んで、決定ボタンを押す。

ビデオ入力2の設定画面が表示されます。

手順5～6を繰り返して、ビデオ入力1と同様に設定を行ってください。

8 ↑/↓ ボタンで[終了]を選んで、決定ボタンを押す。

[終了]を選べると、画面が閉じます。

📌 ご注意

画面リモコンを設定すると、テレビ画面に表示されるリモコンでビデオやDVDを操作できます。TVボックスに付属のリモコンで操作するときは、TVボックスに向けてリモコンを操作してください。

チャンネル設定を変更する

受信するテレビチャンネルを手動で設定できます。

ベースステーションで受信可能なチャンネル

VHF放送： 1～12チャンネル

UHF放送： 13～62チャンネル

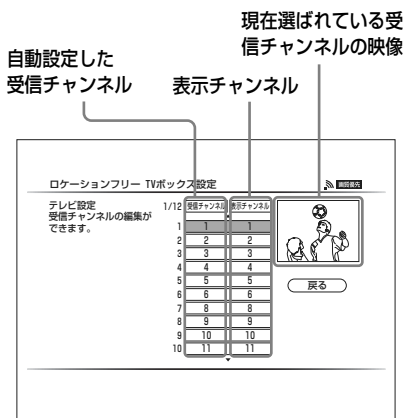
ケーブルテレビ：

C13～C63チャンネル

1 「準備7 テレビ/ビデオの設定を行う」の手順1～3(㊦ 37ページ)を行う。

2 ↑/↓/←/→ ボタンで[編集]を選んで、決定ボタンを押す。

受信チャンネルの編集画面が表示されます。



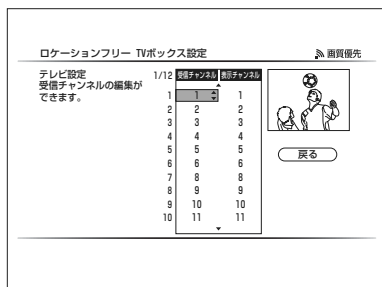
「受信チャンネル」とは

新聞のテレビ欄などに記載されているチャンネルです。

「表示チャンネル」とは

TVボックスの画面上部のバーや、チャンネルリストに表示されるテレビチャンネルの番号です。

3 ↑/↓ボタンで変更したい受信チャンネルを選んで、決定ボタンを押す。



右側の画面に、選んだチャンネルの映像が表示されます。

↓ボタンを押し続けると次のリストを、↑ボタンを押し続けると前のリストを表示します。

4 ↑/↓ボタンで受信チャンネルの数字を選ぶ。

見ないチャンネルを消去したいときは

[--] (1の前、またはC63の次) を選ぶと、テレビチャンネルを受信しなくなります。

💡 ちょっと一言

ケーブルテレビのときは、チャンネル番号の前に「C」の付いた番号を選びます。

5 →/決定ボタンを押して、[表示チャンネル]欄を選ぶ。

自動的に「受信チャンネル」で選んだチャンネルが表示されます。

6 ↑/↓ボタンでチャンネルリストに表示したいテレビチャンネルを選ぶ。

7 ↑/↓/←/→ボタンで[戻る]を選んで、決定ボタンを押す。

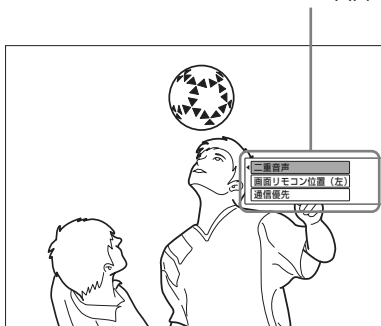
「準備7 テレビ/ビデオの設定を行う」の手順3 (38ページ) に戻ります。

オプションボタン でテレビやビデオ を設定する

リモコンのオプションボタンを押すと、オプション画面が表示されます。テレビやビデオなどの映像や音声を調整したり、ベースステーションに接続したりできます。

-
- 1 オプションボタンを押す。**
オプション画面が表示されます。

オプション画面



-
- 2 ↑/↓ボタンで項目を選んで、決定ボタンを押す。**

オプション項目については「オプション画面でできること」(㊚ 42ページ)をご覧ください。

オプション項目の操作や、設定について詳しくは、「便利な機能と設定」(㊚ 54ページ)をご覧ください。

.....

オプション画面でできること

画質優先/通信優先*¹ (㊚ 56ページ)

NetAV 接続/切断*² (㊚ 57ページ)

二重音声*³ (㊚ 54ページ)

レート変更*² (㊚ 54ページ)

画面リモコン位置 (左) / (右)
(㊚ 55ページ)

*¹ ベースステーションと直接ワイヤレスで接続しているときや、ルーター経由で接続しているときに表示されます。

*² インターネット経由で接続しているときに表示されます。

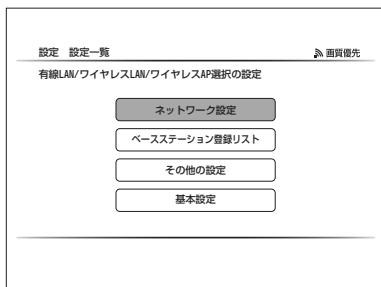
*³ TVボックスの入力がテレビのときのみ表示されます。

設定画面でTVボックスを設定する

リモコンの設定ボタンを押すと、設定画面が表示されて、TVボックスの設定を行うことができます。TVボックスのネットワーク設定を行ったり、TVボックスをベースステーションに登録したり、その他の詳細な設定を行うことができます。

- 1 設定ボタンを押す。
「設定」画面が表示されます。

- 2 ↑/↓ボタンで設定したい項目を選んで、決定ボタンを押す。



設定項目については「設定画面でできること」(㊦ 43ページ)をご覧ください。

次の画面が表示されるので、引き続き↑/↓/←/→/決定ボタンで操作します。

設定項目の操作や、設定について詳しくは、「ロケーションフリー TVボックスの設定」(㊦ 60ページ)をご覧ください。

- 3 設定が終わったら、設定ボタンを押して、画面を閉じる。

ご注意

設定の保存中は、TVボックスの電源を切らないでください。

設定画面でできること

ネットワーク設定 (㊦ 65ページ)

ベースステーション登録リスト
(㊦ 75ページ)

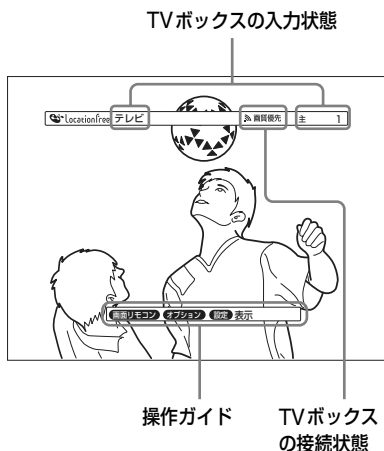
その他の設定 (㊦ 77ページ)

基本設定 (㊦ 80ページ)

現在の状態を画面に表示する

リモコンの画面表示ボタンを押すと、TVボックスの入力状態や接続状態を示すアイコンが画面上部に、操作ガイドが画面下部に表示されます。

1 画面表示ボタンを押す。



TVボックスの入力状態

現在の入力（テレビ/ビデオ入力1/ビデオ入力2）が表示されます。テレビを見ているときは、テレビのチャンネル番号や、二重音声/ステレオ放送時は現在の状態が表示されます。

TVボックスの接続状態

表示されるアイコン	アイコンの意味
	ワイヤレスで接続しています。DHCPサーバーからIPアドレスを取得中は、が点滅します。は信号レベルにより、3段階の表示をします。
	ワイヤレスで接続していません。
	LANケーブルで接続しています。DHCPサーバーからIPアドレスを取得中は、が点滅します。
	LANケーブルで接続していません*1。
	ベースステーションに接続していないときに表示されます。
	TVボックスとベースステーションがNetAVで接続されているときに表示されます。
画質優先	「画質優先」に設定したときに表示されます。 「画質優先」について詳しくは「画質を切り換える」（ 56ページ）をご覧ください。
通信優先	「通信優先」に設定したときに表示されます。 「通信優先」について詳しくは「画質を切り換える」（ 56ページ）をご覧ください。

*1 ワイヤレスで接続をするときに、が表示された場合は、ワイヤレスがオフに設定されていないかご確認ください。

リモコンで各社のテレビを操作する

リモコン信号を、お使いのテレビのメーカーに合わせると、TVボックスに付属のリモコンで、テレビの電源、音量、入力切換を操作できます。お買い上げ時は、ソニー製のテレビに設定されています。



1 お使いのテレビのメーカーを確認して、次ページの表で設定に必要なボタンを確認する。

ここでは、お使いのテレビのメーカーに合わせて、どちらのボタンを押すのかを確認します。

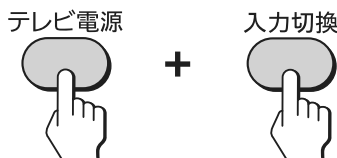
2 テレビ電源ボタンを押しながら、入力切換(テレビ操作)ボタンまたは画面リモコンボタンを押す。

テレビ電源ボタンを押しながら、次の手順を行います。



テレビ電源ボタンは押したままにしてください。

3 テレビ電源ボタンを押したまま、テレビのメーカーに合わせたボタンを押す。



ご注意

お使いのテレビによっては、上記の手順でテレビのメーカーに合わせたボタンを押して設定しても、付属のリモコンでテレビを操作できないことがあります。

画面リモコンボタンを押してから押すボタン

テレビのメーカー	リモコンのボタン
ソニー	入力切換（テレビ操作）
松下電器	入力切換（TVボックス）
東芝	音量+
日立製作所	画面表示
三菱電機（1）	音量-
ビクター	消音
三洋電機	設定
シャープ	カーソルリモコン
NEC（1）	↑

入力切換(テレビ操作)ボタンを押してから押すボタン

テレビのメーカー	リモコンのボタン
NEC（2）	入力切換（テレビ操作）
パイオニア（1）	入力切換（TVボックス）
その他	音量+
アイワ	画面表示
三星電子（SAMSUNG）	消音
RCA	設定
三菱電機（2）	カーソルリモコン
パイオニア（2）	↑

ベースステーションからの映像を見る

ベースステーションにつないだテレビやビデオ、DVDの映像を、TVボックスにつないだテレビで見ることができます。あらかじめ、「ロケーションフリーTVボックスの準備」(㊦ 26ページ)を行っておいってください。

1 ベースステーション正面にある電源ボタンを押して電源を入れる。
ベースステーション正面の電源ランプが緑色に点灯します。

2 リモコンの電源ボタンを押す。
TVボックスのI/O(電源)ランプが緑色に点灯します。

3 テレビの電源を入れる。

4 テレビにTVボックスの映像が映るように、テレビの入力を「ビデオ」などに切り換える。

登録したベースステーションにつながらない場合やインターネット経由で接続する場合は

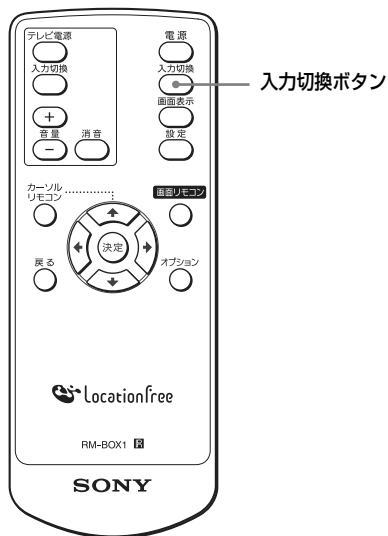
「ベースステーション登録リスト」画面(㊦ 75ページ)が表示されます。リストから接続したいベースステーションを選んで、[接続]を選んでください。

💡 ちょっと一言

画面上部のバーに、TVボックスの入力状態や接続状態が表示されます。画面上部のバーは、画面操作後数秒で自動的に消えます。画面上部のバーについて詳しくは、「現在の状態を画面に表示する」(㊦ 44ページ)をご覧ください。

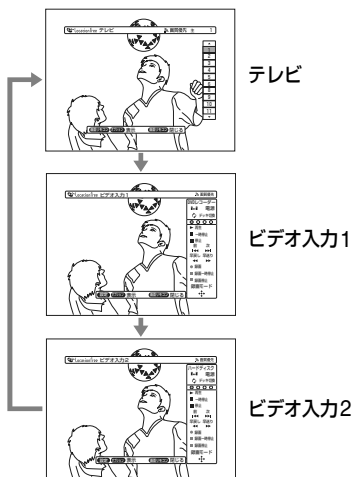
ベースステーションからの入力信号を切り換える

入力切換ボタンを押すと、テレビやビデオ、DVDなどベースステーションにつないだ外部入力機器の映像を切り換えることができます。



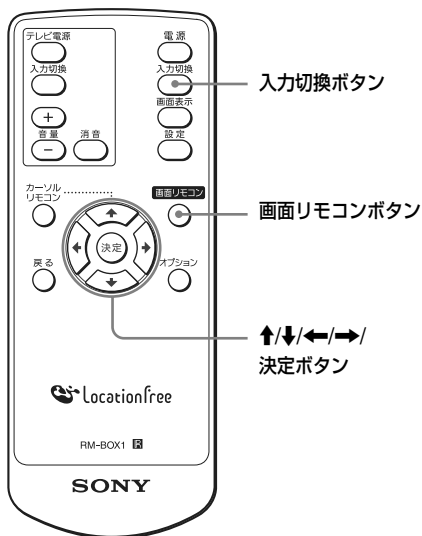
入力切換ボタンを押す。

入力切換ボタンを押すたびに、下記のように入力が切り換わります。



テレビを見る

チャンネルリストを表示して、見たいテレビチャンネルを選ぶことができます。



1 入力切換ボタンを押して、テレビに切り換える。

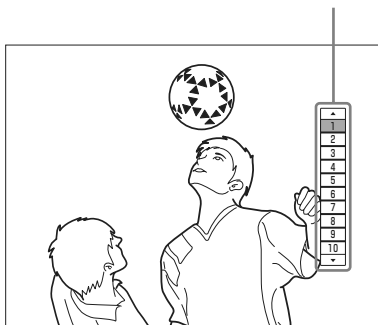
テレビの映像が表示されます。チャンネルリストと、TVボックスの入力状態と接続状態が、画面に自動的に表示されます。表示は画面操作後数秒で自動的に消えます。

チャンネルリストが表示されていないときは

画面リモコンボタンを押すと、チャンネルリストが表示されます。

2 ↑/↓ボタンを押して見たいチャンネルを選んで、決定ボタンを押す。

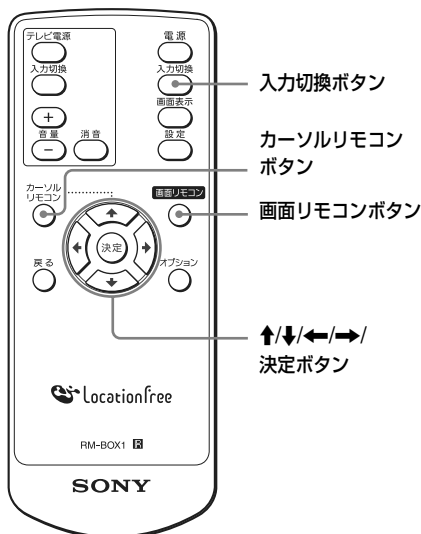
チャンネルリスト



選んだテレビチャンネルの映像が表示されます。

ビデオを見る

ベースステーションにつないだ外部入力機器の映像は、ビデオ入力1/2に表示されます。



入力切換ボタンを押して、ビデオ入力1/2に切り換える。

ビデオやDVDの映像が表示されます。画面リモコンと、TVボックスの入力状態と接続状態が、画面に自動的に表示されます。表示は画面操作後数秒で自動的に消えます。

画面リモコンが表示されていないときは

画面リモコンボタンを押すと、画面リモコンが表示されます。

画面リモコンで操作する

画面リモコンを設定する（「準備 7 テレビ/ビデオの設定を行う」（37ページ）と、画面リモコンを使ってビデオやDVDを操作することができます。

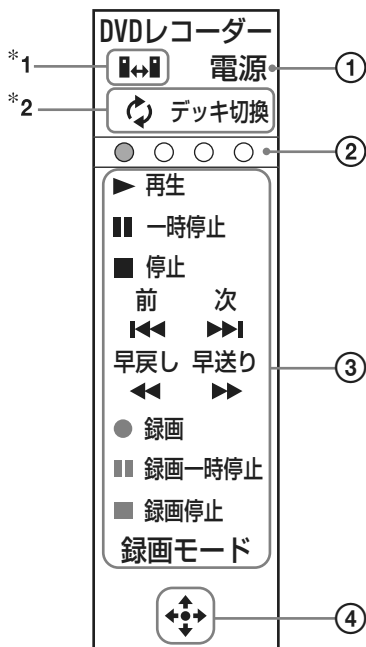
↑/↓/←/→ ボタンで画面リモコンの操作したいボタンを選んで、決定ボタンを押す。



デジタル放送の番組表やDVDのタイトルリスト画面など、画面に表示したメニューをリモコンで直接操作したいときは、カーソルリモコンを使うと操作できます。カーソルリモコンについて詳しくは、「カーソルリモコンで操作する」（52ページ）をご覧ください。

画面リモコン

設定や接続されている機器によって、表示されるリモコンやボタンの種類が異なります。



- ① 電源ボタン
外部入力機器の電源の入/切を行います。
- ② 表示切換ボタン
画面リモコンに表示されるボタンを切り換えます。
- ③ 操作ボタン
外部入力機器を操作します。
- ④ カーソルリモコンボタン
カーソルリモコンを表示します。詳しくは、「カーソルリモコンで操作する」(P. 52ページ)をご覧ください。

- *1 1つのビデオ入力に対して、2つのリモコンを設定したときは、 ボタンを押すと表示されるリモコンが切り換わります。
- *2 HDD+DVD（一体型）など一体型の機器をお使いの場合は、[デッキ切換]ボタンを押すと、一体型の機器に入っている2つのデッキの映像とリモコンを同時に切り換えます。[デッキ切換]ボタンを押して表示されるデッキの映像と画面上のリモコンが一致しないときは、 ボタンを押すと、映像が切り換わります。

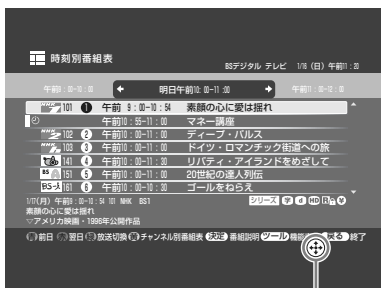
画面リモコンを画面からすぐに消したときは

画面リモコンボタンか戻るボタンを押してください。

カーソルリモコンで操作する

- 1 カーソルリモコンボタンを押すか、
↑/↓/←/→ボタンで画面リモコン
の \oplus を選んで、決定ボタンを押す。
画面リモコンが消えて、 \oplus マークの
みが、画面に表示されます。
画面に表示されたメニューなどの項
目を、本機のリモコンの↑/↓/←/
→/決定ボタンで操作できるように
なります。

- 2 ↑/↓/←/→ボタンで画面に表示さ
れたメニューなどの項目を選んで、
決定ボタンを押す。



カーソルリモコン

カーソルリモコン

カーソルリモコンが画面に表示されて
いるときは、つないだ外部入力機器の
メニュー画面などをTVボックスに付属
のリモコンを使って、直接操作するこ
とができます。↑/↓/←/→/決定ボタン
を使って、外部入力機器のメニュー画
面などを操作することができます。



カーソルリモコン

カーソルリモコンから画面リモコンに
戻りたいときは

画面リモコンボタンを押してください。

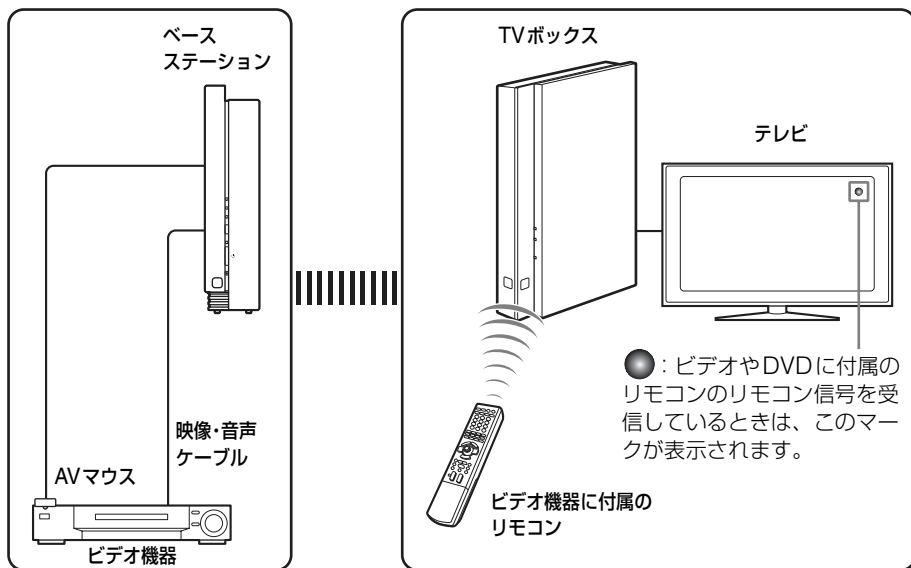
カーソルリモコンを画面からすぐに消
したいときは

カーソルリモコンボタンか戻るボタン
を押してください。

ビデオやDVDに付属のリモコンで直接操作する

ベースステーションにつないだビデオやDVDなどの外部入力機器を、ビデオやDVDに付属のリモコンを使って、直接操作することができます。あらかじめ、「準備7 テレビ/ビデオの設定を行う」の手順6（㊦ 39ページ）で設定を行っておいてください。

TVボックスのリモコン受光部に向けて、ベースステーションにつないだビデオやDVDに付属のリモコンの操作ボタンを押す。



ベースステーションにつないだビデオやDVDの映像や音声を操作できます。

ビデオやDVDに付属のリモコンで操作するときのご注意

- 「準備7 テレビ/ビデオの設定を行う」の手順5（㊦ 39ページ）で、画面リモコンとして設定できるメーカーや機種として画面に表示されたビデオやDVDのみ、付属のリモコンで直接操作することができます。
- 画面リモコンで設定できるメーカーや機種として選んでも、直接操作することができない機種があります。
- リモコンとTVボックスの距離によっては、操作できないことがあります。距離については、お使いのリモコンによって異なります。

音声を切り換える

[二重音声]

二ヶ国語放送など二重音声放送のときに、聞きたい音声を選べます。テレビを見ているときのみ設定できます。

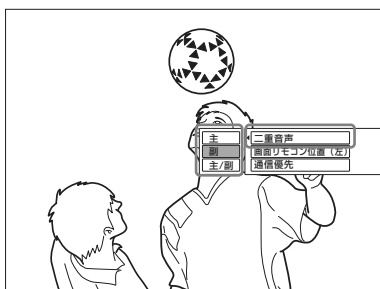
1 オプションボタンを押す。

オプション画面が表示されます。

2 ↑/↓ボタンで[二重音声]を選んで、決定ボタンを押す。

「二重音声」画面が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで[主]、[副]または[主/副]のいずれかを選んで、決定ボタンを押す。



💡 ちょっと一言

ベースステーションのビデオ入力につないだ機器の二重音声切り換えは、外部入力機器に付属のリモコンで行ってください。画面リモコンから操作できる機器もあります。

映像のレートを調整する

[レート変更]

インターネット経由（NetAV）で接続しているときのみ設定できます。通信状態に応じて、最適な映像を見られるように調整します。

通常は、[自動]を選ぶと通信状態に応じた最適な映像のレートに設定されます。手動でレートを選択する場合は、高い（数字の大きい）レートを選ぶほど画質がよくなりますが、より大きい帯域を必要とするため、帯域が狭い場合には映像が止まりがちになります。

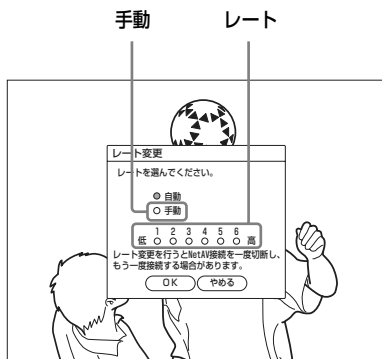
1 オプションボタンを押す。

オプション画面が表示されます。

2 ↑/↓ボタンで[レート変更]を選んで、決定ボタンを押す。

「レート変更」画面が表示されます。

-
- 3** ↑/↓ボタンで[手動]を選んで、決定ボタンを押してから、←/→ボタンでレートを選んで決定ボタンを押す。



-
- 4** ↑/↓ボタンで[OK]を選んで、決定ボタンを押す。

💡 ちょっと一言

接続中に自動と手動を切り換えたり、「1」や「6」から他のレートに変更したり、他のレートから「1」や「6」に変更したときは、NetAV接続が一旦切断された後、再接続されます。

.....

チャンネルリスト や画面リモコンの 表示位置を変える

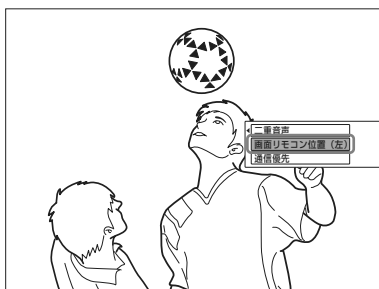
[画面リモコン位置(左)/(右)]

チャンネルリストや画面リモコンの表示位置を左右に移動することができます。

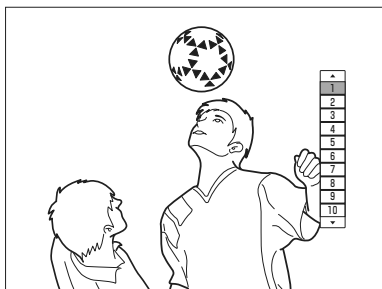
.....

- 1** オプションボタンを押す。
オプション画面が表示されます。
-

- 2** ↑/↓ボタンで[画面リモコン位置(左)/(右)]を選んで、決定ボタンを押す。



選ぶたびに、チャンネルリストや画面リモコンの位置が、左右に移動します。



画質を切り換える

[画質優先/通信優先]

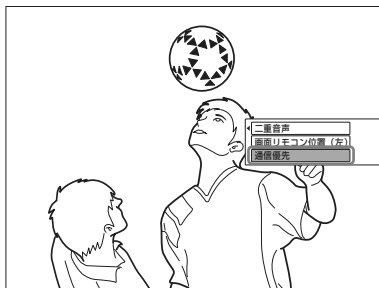
家の中で、TVボックスとベースステーションを接続しているとき（インターネットを使っていないとき）に、ワイヤレス通信の状態に合わせて画質を切り換えることができます。

お買い上げ時は、[画質優先]に設定されています。

1 オプションボタンを押す。

オプション画面が表示されます。

2 ↑/↓ボタンで[画質優先]または[通信優先]を選んで、決定ボタンを押す。



[画質優先]

MPEG2形式で、標準テレビ信号（SD）と同等の画質で映像が表示されます。映像がひんぱんに止まったり、映らないときは、[通信優先]を選んでください。

[通信優先]

[画質優先]を選んでいるときに、TVボックスとベースステーションの距離が離れているときや、障害物があるとき、または2.4GHz帯のデジタルコードレス電話や電子レンジを近くで使っているときなど、ワイヤレス通信が電波の干渉を受けて、映像がひんぱんに止まったり、映らないことがあります。その場合は、[通信優先]を選ぶと、ワイヤレス通信の状態が良くなり、映像が見やすくなる場合があります。

ちょっと一言

[通信優先]を選んで映像がひんぱんに止まってしまう場合は、ベースステーションのワイヤレスチャンネルを5GHzに切り換えてみてください (80ページ)。

ご注意

ベースステーションLF-PK20をクライアントモードでお使いの場合は、[通信優先]のみ利用できます。

NetAVに接続する/切断する

[NetAV 接続/切断]

インターネットを経由して自宅のテレビやビデオ、DVDを見るために、NetAVを接続/切断することができます。

- 1 オプションボタンを押す。
オプション画面が表示されます。

- 2 ↑/↓ボタンで[NetAV 接続]または[NetAV 切断]を選んで、決定ボタンを押す。



[NetAV接続]を選ぶと、インターネット経由でベースステーションに接続されて、ベースステーションにつないだ機器の映像が表示されます。

[NetAV切断]を選ぶと、ベースステーションとの接続が切断されます。

ソフトウェアキーボードを使う

「ネットワーク設定」画面などで、文字や記号を入力するときは、項目を選ぶと自動的にソフトウェアキーボードが表示されて、リモコンの↑/↓/←/→/決定ボタンで文字や記号を入力することができます。

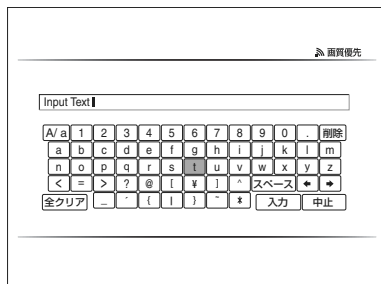
- 1 画面の項目を設定しているときに、文字を入力したい項目を↑/↓/←/→ボタンで選んで、決定ボタンを押す。

ソフトウェアキーボードが表示されます。

- 2 ↑/↓/←/→ボタンでソフトウェアキーボード上の文字ボタンを選んで、決定ボタンを押す。

選んだ文字が入力文字表示エリアに表示されます。

ソフトウェアキーボードの画面について詳しくは、「ソフトウェアキーボード」(59ページ)をご覧ください。

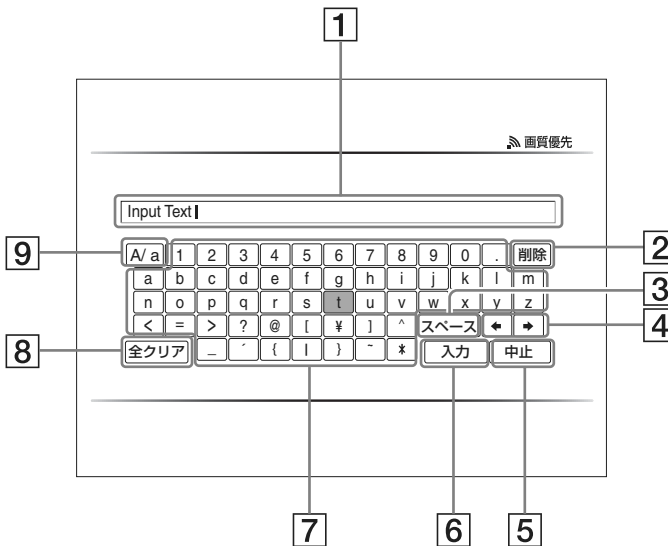


- 3 手順2をくり返して、文字を入力していく。

- 4 ↑/↓/←/→ボタンで「入力」ボタンを選んで、決定ボタンを押す。

選んでいた項目に入力した文字が表示されます。

ソフトウェアキーボード



① 入力文字表示エリア

入力中の文字が表示されます。

② 「削除」 ボタン

入力文字表示エリアの、カーソルの左側にある文字を削除します。

③ 「スペース」 ボタン

スペース（空白）を入力します。

④ 「←/→」 ボタン

入力文字表示エリアでカーソルを移動します。

⑤ 「中止」 ボタン

文字入力を中止して、元の画面に戻ります。入力文字表示エリアに表示されている文字は反映されません。

⑥ 「入力」 ボタン

入力文字表示エリアの文字を反映して、元の画面に戻ります。

⑦ 文字ボタン

文字や記号を入力します。

⑧ 「全クリア」 ボタン

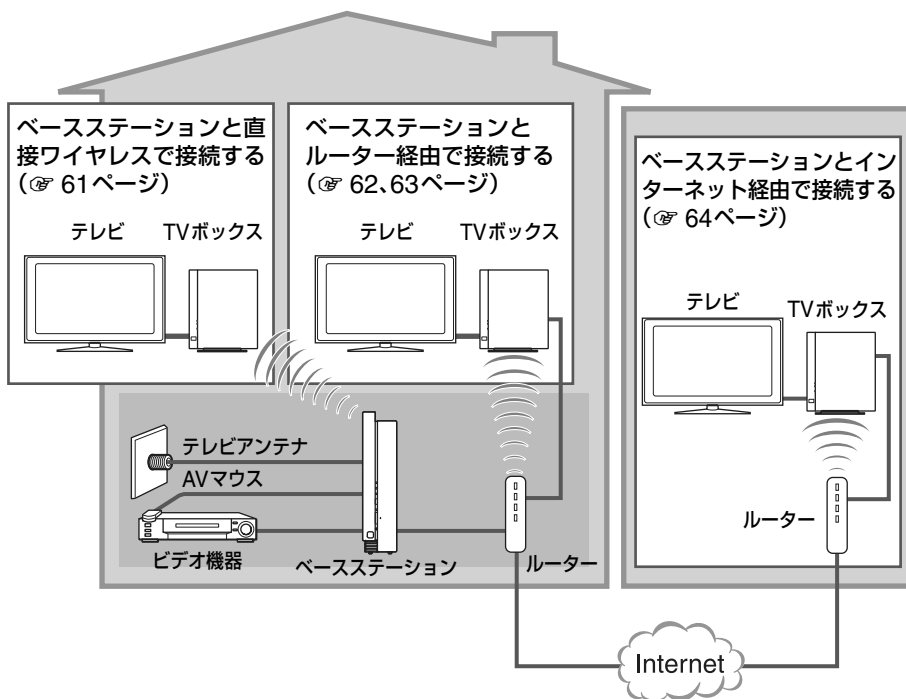
入力文字表示エリアにある文字をすべて削除します。

⑨ 「A/a」 ボタン

英字の大文字や小文字、記号の表記を切り換えます。

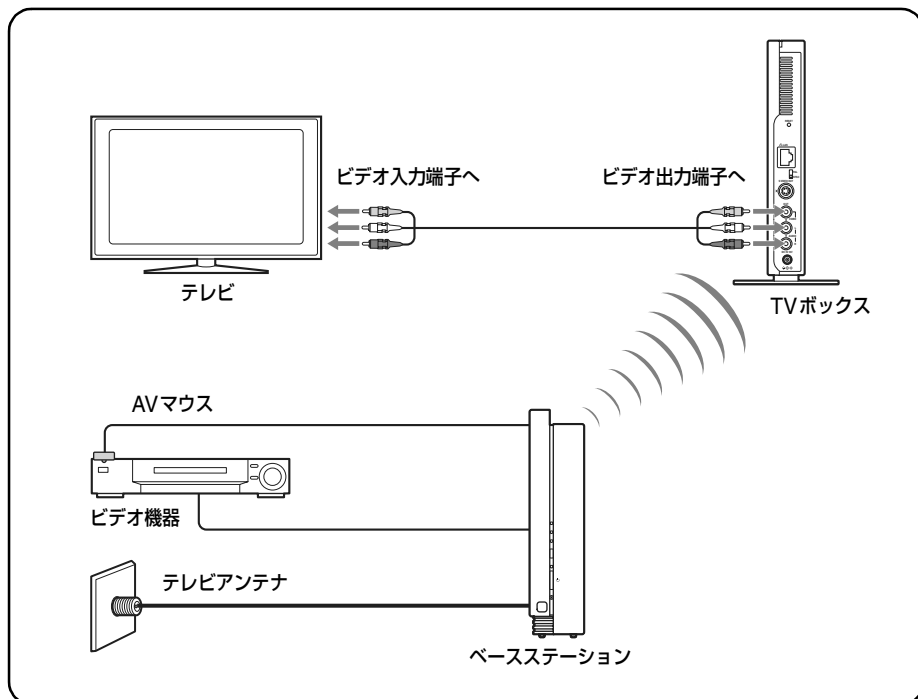
TVボックスとベースステーションの接続を確認する

以下の図を参照し、お使いになる環境に合わせてTVボックスの接続を確認してから、TVボックスをベースステーションに登録してください。



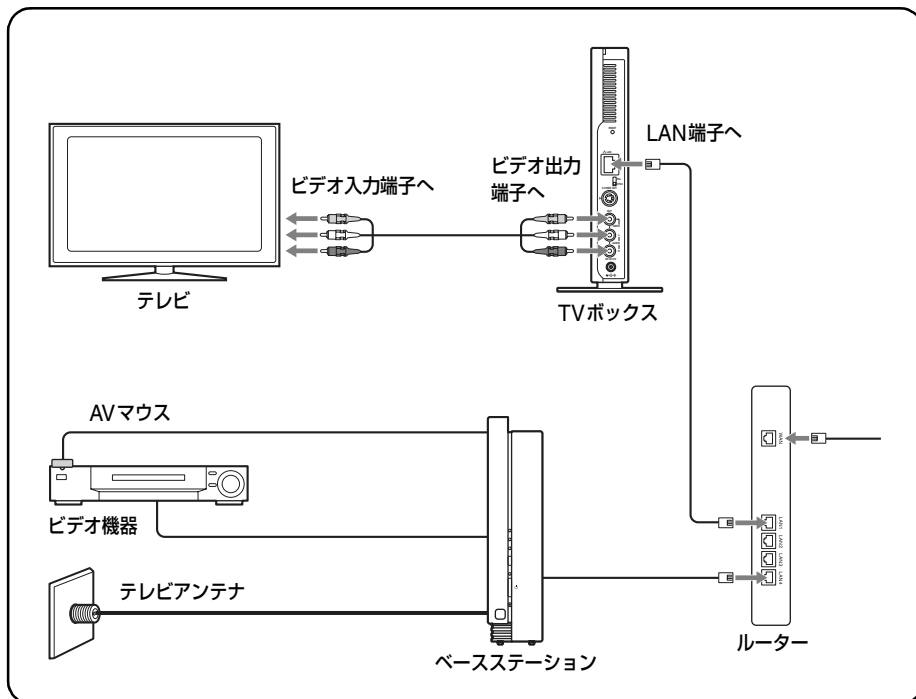
ベースステーションと直接ワイヤレスで接続する場合は

「準備6 TVボックスをベースステーションに登録する」(P. 35ページ)を行えば、ベースステーションに接続できます。



有線でルーターに接続する場合は

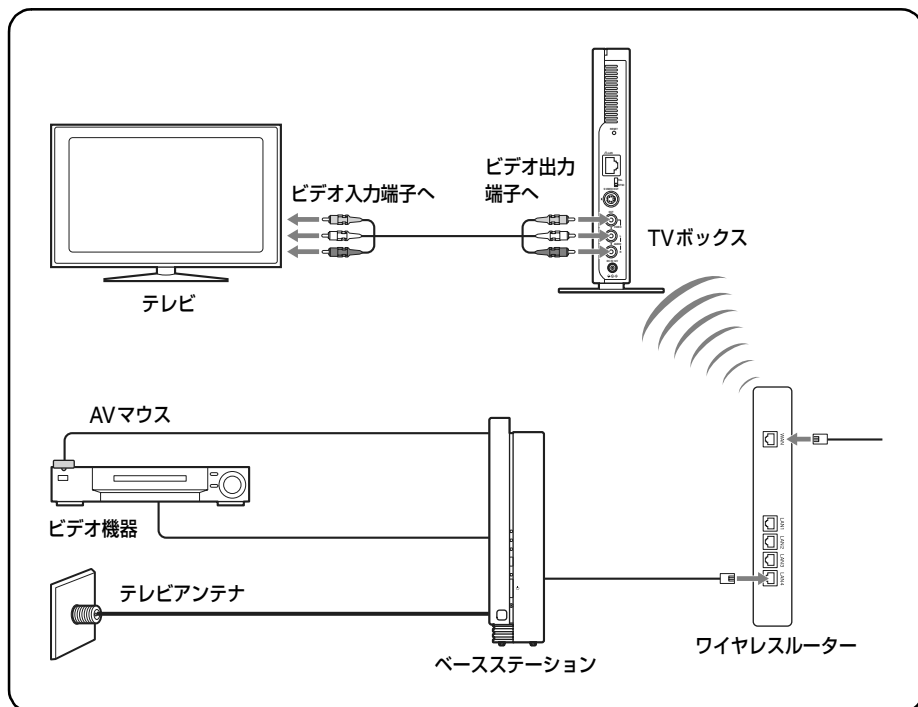
「準備6 TVボックスをベースステーションに登録する」(☞ 35ページ)を行えば、ベースステーションに接続できます。ベースステーションと接続できない場合は、有線LANの回線設定が必要なことがあります。詳しくは、「回線を設定する」(☞ 66ページ)をご覧ください。



ワイヤレスでルーターに接続する場合は

ベースステーションと接続できない場合は、ワイヤレスアクセスポイントに接続する必要があります。「回線を設定する」(㊦ 66 ページ)を行った後、「アクセスポイントに接続するための設定をする」(㊦ 68 ページ)で、ワイヤレスルーターに接続する設定を行ってください。

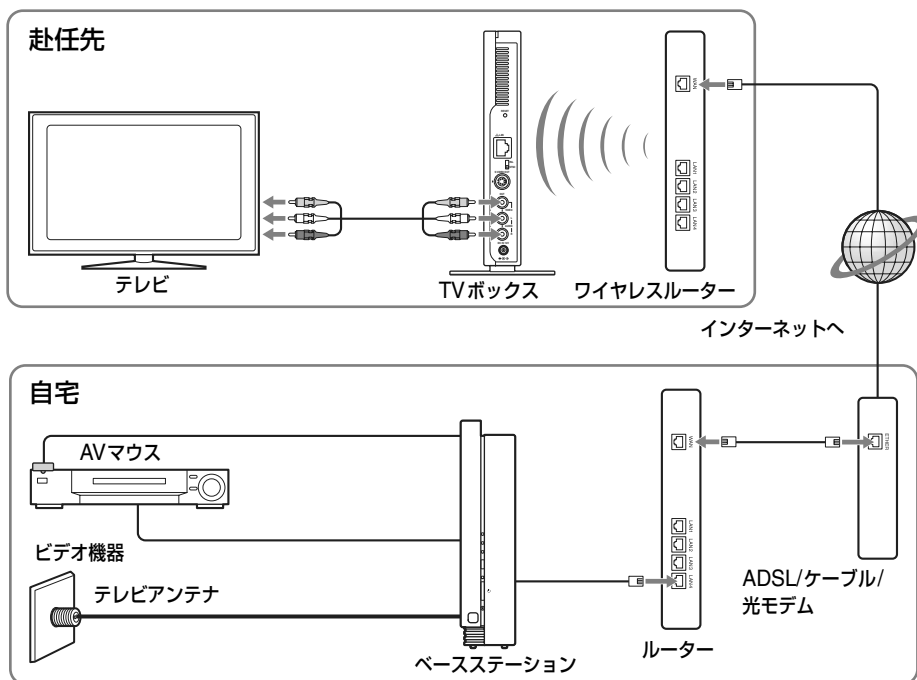
通常は、「準備6 TVボックスをベースステーションに登録する」(㊦ 35 ページ)を行えば、ベースステーションに接続できます。



インターネット経由でベースステーションに接続する場合は

インターネット経由でベースステーションと接続する場合は、赴任先などにお持ちいただく前に、ご自宅などベースステーションが近くにある環境で、「準備6 TVボックスをベースステーションに登録する」(㊦ 35ページ)を行い、ベースステーションへの登録を行うことをお勧めします。その後、赴任先などからTVボックスをインターネットにつながれたルーターと回線設定をすることで、ベースステーションに接続することができます。ワイヤレスでルーターに接続する場合は、「アクセスポイントに接続するための設定をする」(㊦ 68ページ)を行ってください。

ベースステーションにあらかじめ登録せずに、TVボックスを赴任先にお持ちになった場合は、「インターネット経由で機器登録する場合の設定」(㊦ 73ページ)の手順を行って、赴任先からベースステーションへの登録を行ってください。



ネットワークに接続するための設定

「ネットワーク設定」画面を使って、TVボックスをルーターやベースステーション以外のアクセスポイントなどに接続するために、IPアドレスやDNSの設定を行います。

💡 ちょっと一言

お買い上げ時は、ルーターなどのDHCP機能を利用して、自動的にIPアドレスやDNSのアドレスが割り当てられるように設定されています。手動でIPアドレスを設定する必要がある場合のみ、回線の設定を行ってください。

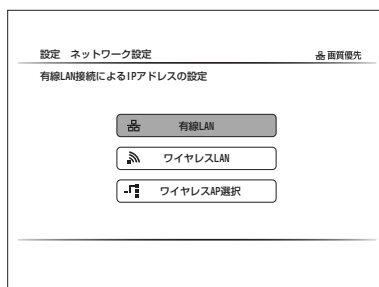
1 設定ボタンを押す。

「設定」画面が表示されます。

2 ↑/↓ボタンで[ネットワーク設定]を選んで、決定ボタンを押す。

「ネットワーク設定」画面が表示されます。

3 ↑/↓ボタンを押して設定したい項目を選んで、決定ボタンを押す。



前の画面に戻るときは

戻るボタンを押します。

設定を終了して画面を閉じるときは

設定ボタンを押すと、設定画面が閉じます。

「準備6 TVボックスをベースステーションに登録する」(☞ 35ページ)を行っているときに、[ネットワーク設定]を選んで、「ネットワーク設定」画面を表示した場合は、戻るボタンを押して「ベースステーションが見つからなかった場合は」(☞ 36ページ)の画面まで戻ってください。

回線を設定する [有線LAN] / [ワイヤレスLAN]

ネットワーク環境に合わせて、TVボックスにIPアドレスを設定できます。また、TVボックスのMACアドレスも調べることができます。

契約しているプロバイダからの資料やモデム、ルーターの説明書にしたがって設定してください。

- 1 設定ボタンを押す。
「設定」画面が表示されます。

- 2 ↑/↓ボタンで[ネットワーク設定]を選んで、決定ボタンを押す。
「ネットワーク設定」画面が表示されます。

- 3 ↑/↓ボタンで[有線LAN]または[ワイヤレスLAN]を選んで、決定ボタンを押す。
「有線LAN」または「ワイヤレスLAN」画面が表示されます。

例:「有線LAN」画面

設定 有線LAN 戻る

(※) は必要な場合のみ入力してください。

☒ IPアドレス自動取得 (DHCP)

IPアドレス: 192.168.1.55
サブネットマスク: 255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ: 192.168.1.1
ホスト名 (※):
MACアドレス: 00:12:34:56:78
ドメイン名:

☒ DNS自動取得

DNS1: 192.168.1.1
DNS2 (※):

「有線LAN」も「ワイヤレスLAN」画面も同じ設定方法となります。

- 4 IPアドレスや、DNSのアドレスを自動的に割り当てるか、手動で設定するかを選ぶ。

チェックボックス

設定 有線LAN 戻る

(※) は必要な場合のみ入力してください。

☒ IPアドレス自動取得 (DHCP)

IPアドレス: 192.168.1.55
サブネットマスク: 255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ: 192.168.1.1
ホスト名 (※):
MACアドレス: 00:12:34:56:78
ドメイン名:

☒ DNS自動取得

DNS1: 192.168.1.1
DNS2 (※):

💡 ちょっと一言

- ホスト名は、[IPアドレス自動取得 (DHCP)] が選ばれているときのみ設定できます。
- MACアドレスを確認することができます。
- お使いの環境によっては、ドメイン名が表示されます。

自動的に割り当てるときは

お買い上げ時は、[IPアドレス自動取得 (DHCP)] や [DNS自動取得] が選ばれており、ルーターやモデムの DHCP 機能を利用して、自動的に IP アドレスや DNS のアドレスが割り当てられるように設定されています。DNS の自動取得は、IP アドレスが自動のとき ([IPアドレス自動取得 (DHCP)] が選ばれているとき) のみ設定できます。

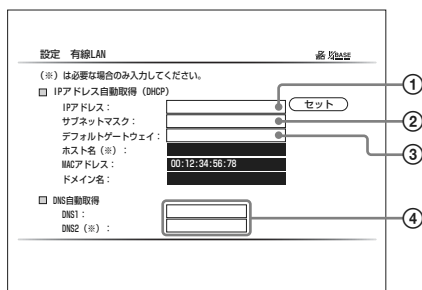
自動的に割り当てるときは、このまま手順6へ進んでください。

手動で設定するときは

↑/↓ボタンで[IPアドレス自動取得(DHCP)]や[DNS自動取得]を選んで、決定ボタンを押すと、チェックボックスのチェックがはずれて、手動で設定できるようになります。手順5へ進んでください。

6 ↑/↓ボタンで[セット]を選んで、決定ボタンを押す。
設定が変更されます。

5 手動でIPアドレスや、DNSのアドレスを設定する。



↑/↓ボタンで項目を選んで、決定ボタンを押すと、文字や数字を入力するソフトウェアキーボードが表示されます。ソフトウェアキーボードを使って、項目を入力してください。ソフトウェアキーボードについて詳しくは、「ソフトウェアキーボードを使う」(P. 58ページ)をご覧ください。

- ① IPアドレスを入力する。
- ② サブネットマスクを入力する。
- ③ デフォルトゲートウェイを入力する。
- ④ 「DNS1」、「DNS2」のアドレスを入力する。

アクセスポイントに接続するための設定をする [ワイヤレスAP選択]

ワイヤレスルーター経由でベースステーションと接続するときは、この設定が必要です。ベースステーションと直接ワイヤレスで接続するときは、この設定は必要ありません。

ワイヤレスアクセスポイントを検索して設定を追加したり、削除したりすることができます。

1 設定ボタンを押す。

「設定」画面が表示されます。

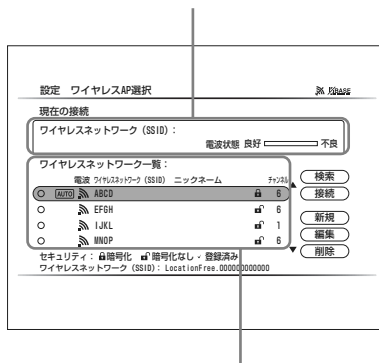
2 ↑/↓ボタンで[ネットワーク設定]を選んで、決定ボタンを押す。

「ネットワーク設定」画面が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで[ワイヤレスAP選択]を選んで、決定ボタンを押す。

ワイヤレスアクセスポイントの一覧と、現在のアクセスポイント、信号の受信状態などが表示されます。

現在のアクセスポイントと、
信号の受信状態



ワイヤレスアクセスポイント

ワイヤレスネットワーク一覧に表示されるアイコン



TV ボックスが起動したときに自動的に接続されるワイヤレスネットワーク



現在接続可能なワイヤレスネットワーク



通信を暗号化しないネットワークで、本機で未設定のもの



暗号鍵 (WEP) または事前共有鍵 (WPA-PSK または WPA2-PSK) によるセキュリティが有効なネットワークで、本機で未設定のもの



通信を暗号化しないネットワークで、本機で設定済みのもの



暗号鍵 (WEP) または事前共有鍵 (WPA-PSK または WPA2-PSK) によるセキュリティが有効なネットワークで、本機で設定済みのもの



信号が検出できないネットワークで、本機で設定済みのもの



ちょっと一言

ステルス設定されたアクセスポイントは信号が検出されません。

ステルスとはアクセスポイントのSSIDを隠す機能です。

AUTO アイコンについてのご注意

- 有線 LAN ケーブルで接続している場合は、ワイヤレス接続されません。
- 「準備6 TVボックスをベースステーションに登録する」(☞ 35 ページ) で登録したベースステーションは、自動的に **AUTO** 設定となります。

4 ↑/↓/←/→ ボタンで[検索]を選んで、決定ボタンを押す。

周囲にあるワイヤレスアクセスポイントの情報が更新されます。

5 ↑/↓/←/→ ボタンで接続したいワイヤレスアクセスポイントを選んで、決定ボタンを押してから、↑/↓/←/→ ボタンで[編集]を選んで、決定ボタンを押す。

接続したいワイヤレスアクセスポイントのSSIDが隠されている(ステルス)場合は、一覧に表示されません。この場合は[新規]を選んでください。SSIDとは、ワイヤレスネットワークを識別するためのIDです。

6 ワイヤレスアクセスポイントを設定する。

お手持ちのワイヤレスルーターに合わせて、項目を入力してください。

The screenshot shows the '設定 編集' (Settings Edit) screen for a wireless access point. It includes fields for 'ワイヤレスネットワーク' (Wireless Network) with a 'ニックネーム' (Nickname) 'ABCD' and a '無線AP接続' (Wireless AP Connection) button. Below is the 'セキュリティ設定' (Security Settings) section with options for '暗号化なし' (No Encryption), 'WEP', and 'WPA'. The 'WPA' section is expanded, showing '事前共有鍵' (Pre-shared Key) and '共有鍵認証' (Shared Key Authentication) options. A '検索' (Search) button is at the top right. Numbered callouts 1 through 7 point to various elements: 1 points to the '検索' button, 2 points to the 'ニックネーム' field, 3 points to the '無線AP接続' button, 4 points to the 'セキュリティ設定' section, 5 points to the 'WPA' radio button, and 6 points to the '事前共有鍵' radio button. Callout 7 points to the top of the screen.



↑/↓ ボタンで項目を選んで、決定ボタンを押すと、チェックを入れたり消したりできます。または、文字や数字を入力するソフトウェアキーボードが表示されます。ソフトウェアキーボードを使って、項目を入力してください。ソフトウェアキーボードについて詳しくは、「ソフトウェアキーボードを使う」(☞ 58 ページ) をご覧ください。

- ① SSIDを入力する。
- ② ニックネームを入力する。
- ③ TVボックスの電源を入ると、自動的にこのワイヤレスアクセスポイントに接続するように設定する場合は、[自動AP接続]にチェックを入れます。この設定は、1つのワイヤレスアクセスポイントにしか設定できません。
- ④ 暗号化なしのワイヤレスアクセスポイントに接続する場合は、[暗号化なし]を選びます。
- ⑤ WEP暗号化方式のワイヤレスアクセスポイントに接続する場合は、[WEP]を選びます。
[暗号鍵]を入力し、認証方式を[オープン認証]または[共有鍵認証]のいずれかから選びます。
暗号鍵の入力のしかたについて詳しくは、「鍵となる文字列を入力する」(☞ 71ページ)をご覧ください。
- ⑥ WPA暗号化方式のワイヤレスアクセスポイントに接続する場合は、[WPA]を選びます。
[事前共有鍵]を入力し、セキュリティを[WPA-PSK TKIP]、または[WPA-PSK AES]、[WPA2-PSK TKIP]、[WPA2-PSK AES]の中から選びます。
事前共有鍵の入力のしかたについて詳しくは、「鍵となる文字列を入力する」(☞ 71ページ)をご覧ください。
- ⑦ [セット]を選ぶと、入力した項目が設定され、[ワイヤレスAP選択]画面に戻ります。

7 ↑/↓ ボタンで[接続]を選んで、決定ボタンを押す。

アクセスポイントに接続すると、現在のアクセスポイントのワイヤレスネットワーク (SSID) と、信号の受信状態が表示されます。

ご注意

画面右上に、接続状態のアイコン  が表示されます。このアイコンが表示されない場合は、お手持ちのワイヤレスルーターの取扱説明書を参照して、アクセスポイントの設定を確認してください。また、 アイコンが点滅中は、DHCPサーバーからIPアドレス取得中です。しばらく待っても点滅が止まらない場合は、手順6 (☞ 69ページ)にあるワイヤレスアクセスポイントの設定を確認してください。もしくは、事業者の指示に従ってアクセスポイントの設定を確認してください。

設定をリストから削除するときは

↑/↓ ボタンで[削除]を選んで、決定ボタンを押します。

削除を確認する画面が表示されたら、←/→ ボタンで[OK]を選んで、決定ボタンを押してください。
中止するときは[やめる]を選んでください。

前の画面に戻るときは

戻るボタンを押します。

設定を終了して画面を閉じるときは

設定ボタンを押すと、設定画面が閉じます。

「準備6 TVボックスをベースステーションに登録する」(㊦ 35ページ)を行っているときに、[ネットワーク設定]を選んで、「ネットワーク設定」画面を表示した場合は、戻るボタンを押して「ベースステーションが見つからなかった場合は」(㊦ 36ページ)の画面まで戻ってください。

鍵となる文字列を入力する

WEPの場合：

文字または16進数で暗号鍵を入力します。

暗号鍵には、任意の文字列を設定できますが、暗号鍵の長さによって必要文字数が異なります。暗号鍵の必要文字数と使用できる文字は次のとおりです。

暗号鍵長	64bit	128bit
文字入力	5文字 (半角英数字、記号)	13文字 (半角英数字、記号)
16進数入力	10文字 (0～9、A～F、a～f)	26文字 (0～9、A～F、a～f)

WPA-PSKまたは


WPA2-PSKの場合：

8文字以上64文字以内で事前共有鍵を入力します。

64文字で入力した場合にのみ、使用できる文字は、0～9、a～f、A～Fになります。

入力方法	文字数
文字入力	8～63文字 (半角英数字、記号)
16進数入力	64文字 (0～9、a～f、A～F)

ワイヤレスLANセキュリティ機能について

ワイヤレスLANではセキュリティの設定をすることが非常に重要です（「安全のために」の「TVボックスのワイヤレス通信について」（ 3ページ）をご覧ください）。本機で対応しているワイヤレスLANセキュリティ機能の特長を以下に説明します。

暗号化なし

設定が容易な反面、特別なツールを使わずに誰でも通信内容の傍受やワイヤレスLANへの侵入が可能です。不正アクセスやデータ盗聴などの危険がありますのでご注意ください。

WEP

IEEE802.11で規格化されているワイヤレスLANのセキュリティ技術で、通信を暗号化することで第三者による通信内容の傍受やワイヤレスLANへの侵入を防止します。64bitまたは128bit長の暗号鍵を設定する必要があります、128bit鍵を設定する方が暗号が強固になります。従来から多くのワイヤレスLAN機器がWEPに対応しているので互換性が高いという特長をもちますが、解読技術が存在しますので同じ暗号鍵を長期間使いつづけるのは避けてください。

TKIP

WEPの欠点を改善する目的で開発されたセキュリティ技術で、WEPと比較して強固なセキュリティが実現されます。

AES

WEPやTKIPとは異なる高度な暗号化方式を使用するセキュリティ技術で、WEPやTKIPと比較して強固なセキュリティが実現されます。

接続するワイヤレスLANのセキュリティに応じて本機を設定する必要があります。より強固なセキュリティを実現するため、WPA-PSK TKIP、WPA2-PSK TKIP、WPA-PSK AES、またはWPA2-PSK AESを使用することをお勧めします。また、暗号鍵や事前共有鍵は、人から推測されにくい文字列を設定してください。

インターネット経由で機器登録する場合の設定

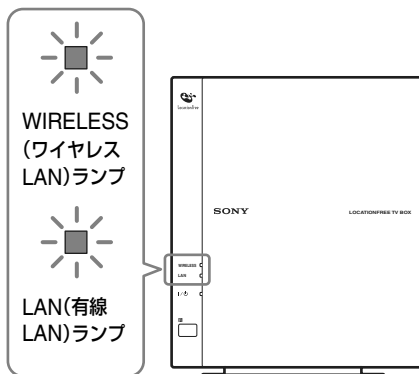
遠隔地からインターネット経由でベースステーションにTVボックスを登録する場合は、TVボックスがインターネットにつながれたルーターとの回線設定が必要です。ワイヤレスでルーターに接続する場合は、「アクセスポイントに接続するための設定をする」(㊦ 68 ページ)を行ってください。

💡 ちょっと一言

インターネット経由での機器登録には、ドメイン名またはIPアドレス、ポート番号、登録用パスワードが必要です。ベースステーションの設定画面か、ベースステーション(LF-PK20) 付属の「かんたん準備ガイド」のシールの記載をご覧ください。

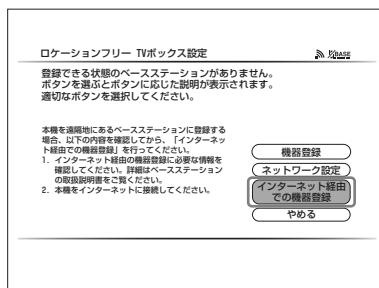
1 「準備 6 TVボックスをベースステーションに登録する」(㊦ 35 ページ)の手順1で[開始]を選ぶ、または「ベースステーション登録リスト」画面から[追加]を選ぶ(㊦ 76 ページ)。

2 TVボックスのWIRELESS(ワイヤレスLAN)ランプ、またはLAN(有線LAN)ランプが点灯しているかを確認する。



ランプのどちらかが点灯している場合は、ネットワークに接続しています。

3 ↑/↓ ボタンで[インターネット経由での機器登録]を選んで、決定ボタンを押す。



4 「インターネット経由での機器登録」画面の項目を入力して、TVボックスをベースステーションに登録する。

ロケーションフリー TVボックス設定

インターネット経由でベースステーションに登録するために必要な情報を入力してください。

ドメイン名またはIPアドレス：
BK0000000000.LF-PK20JP.MyNetAV.com

ポート番号：
5024

登録パスワード：
65591602

登録 やめる

↑/↓ボタンで項目を選んで、決定ボタンを押すと、文字や数字を入力するソフトウェアキーボードが表示されます。ソフトウェアキーボードを使って、項目を入力してください。ソフトウェアキーボードについて詳しくは、「ソフトウェアキーボードを使う」(P. 58ページ)をご覧ください。

- ① ベースステーションのドメイン名またはIPアドレスを入力する。
- ② ベースステーションのポート番号を入力する。
- ③ ベースステーションの登録パスワードを入力する。

5 ↓/↑ボタンで[登録]を選んで、決定ボタンを押す。

6 ベースステーションへの登録が終了します。

ロケーションフリー TVボックス設定

ベースステーションへの登録が終了しました。
次に映像を見るための設定を行います。

ベースステーション：LF-PK20JP K000000

次へ やめる

ベースステーションへの登録が終わると、引き続きテレビ/ビデオの設定を行います。↑/↓ボタンで[次へ]を選んで、決定ボタンを押してください。テレビ/ビデオの設定について詳しくは、「準備7 テレビ/ビデオの設定を行う」(P. 37ページ)をご覧ください。

💡 ちょっと一言

はじめてTVボックスのベースステーションへの登録が終わるまでは、TVボックスの電源を入れるたびに35ページの手順1の画面が表示されます。

ベースステーション登録リストを編集する

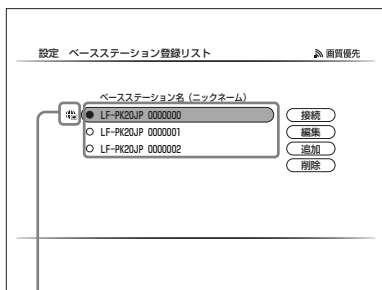
- 「削除」：ベースステーションの登録を削除する。

💡 ちょっと一言

TVボックスは、最大12台のベースステーションに登録することができます。

- 1 設定ボタンを押す。
「設定」画面が表示されます。

- 2 ↑/↓ボタンで[ベースステーション登録リスト]を選んで、決定ボタンを押す。
「ベースステーション登録リスト」画面が表示されます。



📶：このマークが付いているベースステーションと現在接続中です。

「ベースステーション登録リスト」画面を使って、以下の設定ができます。

- 「接続」：TVボックスをベースステーションに接続する、または接続するベースステーションを変更する。
- 「編集」：ベースステーションの登録情報を変更する。
- 「追加」：TVボックスをベースステーションに登録する。

接続するベースステーションを変更するときは

↑/↓ボタンでベースステーションを選んで、決定ボタンを押してから、↑/↓/←/→ボタンで[接続]を選んで、決定ボタンを押します。新しく選んだベースステーションに接続します。

ベースステーション登録リストから削除するときは

↑/↓ボタンでベースステーションを選んで、決定ボタンを押してから、↑/↓/←/→ボタンで[削除]を選んで、決定ボタンを押します。削除を確認する画面が表示されたら、←/→ボタンで[OK]を選んで、決定ボタンを押すと、ベースステーションが「ベースステーション登録リスト」から削除されます。中止するときは、[やめる]を選んでください。

ベースステーションの登録情報を変更するときは

↑/↓ボタンでベースステーションを選んで、決定ボタンを押してから、↑/↓/←/→ボタンで[編集]を選んで、決定ボタンを押します。
「編集」画面が表示されます。

設定 編集 画面優先

ベースステーションの登録情報を変更できます。

ベースステーション (シリアル番号): LF-PK20JP 0000000

ニックネーム: My Room セット

ドメイン名またはIPアドレス: BK000000000.LF-PK20JP.MyNetAV.com

ポート番号: 5024

↑/↓ボタンで項目を選んで、決定ボタンを押すと、文字や数字を入力するソフトウェアキーボードが表示されます。ソフトウェアキーボードを使って、項目を入力してください。ソフトウェアキーボードについて詳しくは、「ソフトウェアキーボードを使う」(P.58ページ)をご覧ください。

- ① ベースステーションのニックネームを編集する。
わかりやすいニックネームをつけておくと便利です。ニックネームが「ベースステーション登録リスト」に表示されます。
- ② ベースステーションのドメイン名またはIPアドレスを入力する。
- ③ ベースステーションのポート番号を入力する。
- ④ [セット]を選ぶと、ベースステーションの情報が保存されて、「ベースステーション登録リスト」画面へ戻ります。

新しくベースステーションを追加するときは

↑/↓/←/→ボタンで[追加]を選んで、決定ボタンを押します。新しいベースステーションへの登録を開始します。登録が終了すると、新しいベースステーションが「ベースステーション登録リスト」画面に追加されます。

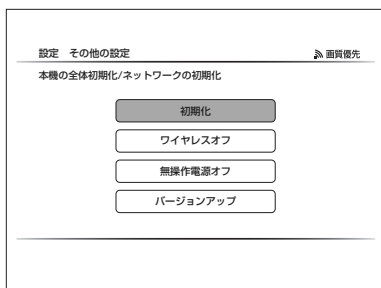
その他の設定

TVボックスの設定の初期化、ワイヤレスオフ、無操作電源オフ、バージョンアップに関する設定を行います。

- 1 設定ボタンを押す。
「設定」画面が表示されます。

- 2 ↑/↓ボタンで[その他の設定]を選んで、決定ボタンを押す。

- 3 ↑/↓ボタンで設定したい項目を選んで、決定ボタンを押す。

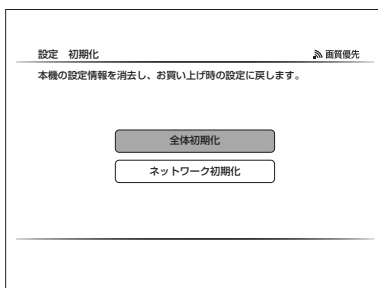


TVボックスの設定を初期化する

TVボックスの設定をお買い上げ時の設定に戻すことができます。

- 1 ↑/↓ボタンで[初期化]を選んで、決定ボタンを押す。

- 2 ↑/↓ボタンで[全体初期化]または[ネットワーク初期化]を選んで、決定ボタンを押す。



[全体初期化]を選ぶと

TVボックスの設定がすべてお買い上げ時の状態に戻ります。

[ネットワーク初期化]を選ぶと

「ネットワークに接続するための設定」(☞ 65ページ)で設定した内容が、お買い上げ時の状態に戻ります。

- 3 [OK]が選ばれていることを確認して、決定ボタンを押す。

TVボックスの設定が初期化されて、TVボックスが再起動されます。

初期化を中止するときは、[やめる]を選んで、決定ボタンを押してください。

ワイヤレス通信を停止する

TVボックスは、LANケーブルで接続していないときはいつでも、ワイヤレス通信するように設定されています。

ワイヤレス通信の信号を常に出している状態になっているため、ワイヤレス通信が制限されている場所では、TVボックスのワイヤレス通信を停止してください。

ご注意

ワイヤレス通信を停止すると、TVボックスはワイヤレス通信を使ってベースステーションやワイヤレスLANアクセスポイントに接続できなくなります。

💡 ちょっと一言

再びワイヤレス通信を行いたい場合には、チェックボックスのチェックをはずしてください。

-
- 1 ↑/↓ボタンで[ワイヤレスオフ]を選んで、決定ボタンを押す。
-

- 2 ↑/↓ボタンで[ワイヤレスオフに設定する]のチェックボックスを選んで、決定ボタンを押す。

チェックボックス

The screenshot shows a settings menu for a TV box. At the top, there are two tabs: '設定' (Settings) and 'ワイヤレスオフ' (Wireless Off), with 'ワイヤレスオフ' being the active tab. Below the tabs, there is a text block explaining that the device is normally set to wireless communication and that in some locations, it may be restricted. It instructs the user to select 'Wireless Off to Set' if they want to stop wireless communication. Below this text, there is a checkbox labeled 'ワイヤレスオフに設定する' (Set to Wireless Off) which is currently unchecked. At the bottom of the menu, there is a 'セット' (Set) button.

-
- 3 ↑/↓ボタンで[セット]を選んで、決定ボタンを押す。

ワイヤレス通信が停止され、TVボックスが再起動されます。

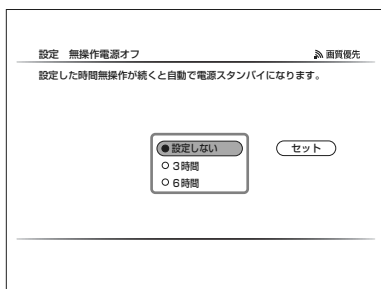
.....

自動で電源を切る

設定した時間内に何も操作しなかったとき、自動的にTVボックスの電源が切れるように設定することができます。

- 1 **↑/↓** ボタンで[無操作電源オフ]を選んで、決定ボタンを押す。

- 2 **↑/↓** ボタンで[3時間]または[6時間]を選んで、決定ボタンを押す。



お買い上げ時の設定は、「設定しない」になっています。

- 3 **↑/↓/←/→** ボタンで[セット]を選んで、決定ボタンを押す。

設定した時間内に何も操作をしなかったときは、画面にメッセージが表示され、その約5分後に電源が自動で切れます。

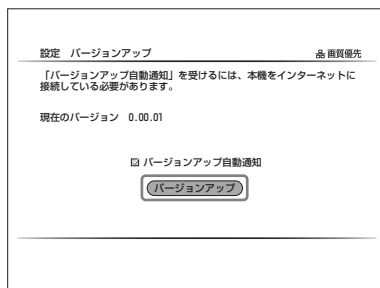
ソフトウェアをバージョンアップする

TVボックスのソフトウェアのバージョンが確認できます。新しいソフトウェアがリリースされたときは、バージョンアップが行えます。

ソフトウェアのバージョンの確認は、ネットワーク経由で行われます。TVボックスがインターネットに接続していることを確認してから、確認を行ってください。

- 1 **↑/↓** ボタンで[バージョンアップ]を選んで、決定ボタンを押す。

- 2 **↑/↓** ボタンで[バージョンアップ]を選んで、決定ボタンを押す。



自動的にソフトウェアのバージョンの確認がはじまり、最新のソフトウェアのバージョン情報が表示されます。ソフトウェアのバージョンアップの情報がないときは、設定ボタンを押して、画面を閉じてください。

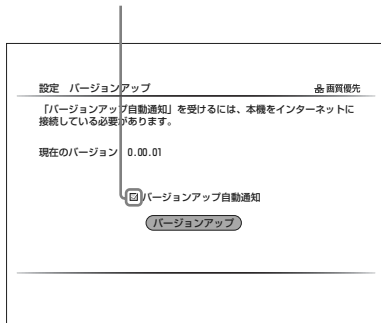
新しいソフトウェアがリリースされたときは、バージョンアップが行えます。手順3に進んでください。

自動的にソフトウェアのバージョンの確認を行うには

↑/↓ボタンで[バージョンアップ自動通知]のチェックボックスを選んで、決定ボタンを押します。

[バージョンアップ自動通知]にチェックを入れておくと、インターネットに接続していれば、自動的にソフトウェアのバージョンの確認を行います。

チェックボックス



3 ソフトウェアをバージョンアップするときは、決定ボタンを押して[開始]を選ぶ。

画面の指示にしたがって、バージョンアップの操作を行ってください。

ご注意

バージョンアップ中は、TVボックスの電源を絶対に切らないでください。

基本設定

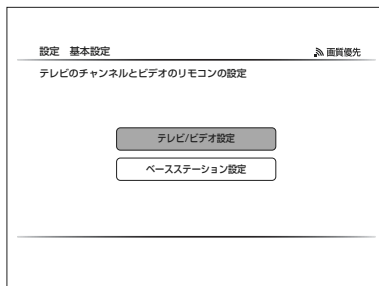
「基本設定」画面から、テレビやビデオの設定や、ベースステーションのワイヤレスチャンネルの設定をすることができます。

1 設定ボタンを押す。

「設定」画面が表示されます。

2 ↑/↓ボタンで[基本設定]を選んで、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓ボタンで項目を選んで、決定ボタンを押す。



[テレビ/ビデオ設定]を選ぶと

テレビチャンネルや画面リモコンの設定ができます。「準備7 テレビ/ビデオの設定を行う」(P. 37 ページ)の手順2以降をご覧ください。設定してください。

[ベースステーション設定]を選ぶと

ベースステーションのワイヤレス設定を変更するため、ベースステーション設定画面を表示します。ベースステーション設定画面を閉じるときは、リモコンの設定ボタンを押してください。

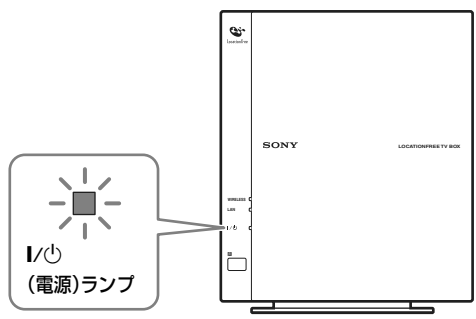
.....


自己診断表示について

使用中に異常が起きたときは、電源を入れたときにTVボックス正面のI/⏻（電源）ランプがTVボックスの状態をお知らせします。次の表でランプの症状と対処のしかたを確認してください。症状が改善されない場合は、ロケーションフリーカスタマーサポートセンター（裏表紙）にお問い合わせください。

自己診断表示ランプ

TVボックス正面



TVボックスのI/⏻ (電源)ランプの症 状	原因	対処のしかた
赤色で連続点滅  (赤)	ハードウェアまたは設定ファ イルの異常のおそれがありま す。	<div>❶ TVボックスの電源の入/切を再 度行う。</div> <div>❷ TVボックスを初期化する (📖 77ページ)。</div> <div>❸ 症状が変わらなければ、ロケー ションフリーカスタマーサポー トセンター（裏表紙）へお問い 合わせください。</div>

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度点検をしてください。それでも正常に動作しないときは、ロケーションフリーカスタマーサポートセンター（裏表紙）にご相談ください。

全般

症状	対処のしかた
TVボックスの電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none">● ACパワーアダプターをつないでください（㊦ 31ページ）。● ACパワーアダプターをつなぎ直してみてください。
TVボックスの電源が突然切れた。または、いつのまにか切れていた。	<ul style="list-style-type: none">● ACパワーアダプターがつながれているか確認してください（㊦ 31ページ）。● 「無操作電源オフ」を設定していませんか（㊦ 79ページ）？
テレビ画面になにも映らない。 画像がおかしい。	<ul style="list-style-type: none">● TVボックスが正しくテレビに接続されていますか（㊦ 30ページ）？● TVボックスをつないだテレビの入力は切り換えていますか（㊦ 47ページ）？● TVボックスの右側面にあるPAL/NTSC切換スイッチは正しくセットされていますか？日本ではNTSC方式が採用されています。動作中にPAL/NTSC切換スイッチを操作すると、画像がおかしくなることがあります。その場合は、TVボックスの電源を入れ直してください。
付属のリモコンでTVボックスの操作ができない。	<ul style="list-style-type: none">● リモコン受光部の近くに蛍光灯や太陽光などの強い照明が当たっているときは、離して置いてください。● TVボックスとリモコン受光部の間に遮蔽物がないようにしてください。また、近づいて操作してみてください。それでも操作が出来ない場合は、リモコンの電池を交換してください（㊦ 27ページ）。● 電池の⊕と⊖を正しい向きに入れてください（㊦ 27ページ）。● リモコンの操作方法については27ページをご覧ください。
付属のリモコンでTVの操作ができない。	<ul style="list-style-type: none">● リモコンでTVのメーカー設定は済んでいますか（㊦ 45ページ）？
何の操作も受け付けない。	<ul style="list-style-type: none">● 電源を切って、もう一度電源を入れ直してください。または、ペン先などの尖ったものでTVボックスの右側面にあるリセットボタンを押してください。

映像を見る/操作する

症状	対処のしかた
映像がひんぱんに止まってしまう。	<p>ワイヤレスLANで接続している場合</p> <ul style="list-style-type: none">● ワイヤレス通信が途切れている可能性があります。通信優先に切り換えるか（☞ 56 ページ）、TV ボックスとベースステーションの距離を近づけてください。● 近くに、TV ボックスとベースステーションが使用しているワイヤレス通信と同じ周波数の機器があると、映像が止まることがあります。 TV ボックスが使用する周波数帯の設定を変更するか、電波をだしている機器から離れたところで使用してください。 ワイヤレスチャンネルの変更は、「ベースステーション設定」（☞ 81 ページ）で行ってください。● 近くで、電子レンジやコードレス電話を使っていませんか？ 使用をやめても改善されない場合、ベースステーションの周波数を 5GHz に変更してください（☞ 80 ページ）。● TV ボックスやベースステーションの高さや向きを変えてみてください。● 通信回線が混雑している可能性があります。ベースステーションが同じネットワークにある場合は、オプション画面で「通信優先」を選んでください（☞ 56 ページ）。 インターネット経由で接続している場合は、オプション画面でレートを自動に設定するか、手動の場合はレートを下げてみてください（☞ 54 ページ）。● インターネット経由で接続している場合は、インターネットの通信状態によっては、映像が止まることがあります。 <p>有線LANで接続している場合</p> <ul style="list-style-type: none">● 家庭内LANで使用している場合は、10Base-T のルーターまたはハブを使用していないですか？ 10BASE-T/100BASE-TX のルーターまたはハブを使用してください。● 通信回線が混雑している可能性があります。ベースステーションが同じネットワークにある場合は、オプション画面で「通信優先」を選んでください（☞ 56 ページ）。 インターネット経由で接続している場合は、オプション画面でレートを自動に設定するか、手動の場合はレートを下げてみてください（☞ 54 ページ）。● インターネット経由で接続している場合は、インターネットの通信状態によっては、映像が止まることがあります。

症状	対処のしかた
操作に遅延がある。	<ul style="list-style-type: none"> チャンネル切り換えや画面上のリモコン操作をネットワークを経由して行うため、反応するまで遅延が生じますが、仕様であり、故障ではありません。
接続が突然切れる。	<ul style="list-style-type: none"> 回線の状況により、接続が切断されることがあります。
操作すると映像の再生速度が変わる。	<ul style="list-style-type: none"> 通信優先やNetAVのときに、チャンネル切り換えや画面上のリモコン操作を早く反映させるためのもので、操作時に音が出ることもありますが、故障ではありません。

ネットワークの設定

症状	対処のしかた
DHCPサーバーからIPアドレスなどの値が自動的に割り当てられない。	<ul style="list-style-type: none"> ルーターとTVボックスの接続を確認してください（☞ 60ページ）。 「回線を設定する」（☞ 66ページ）をご覧ください。なお、「IPアドレス自動取得（DHCP）」のチェックをはずし、手動で回線の設定を入力してください。

インターネット経由で映像を見る(NetAV)

症状	対処のしかた
インターネット経由で機器登録ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ベースステーションがインターネットに接続されているかを確認してください（☞ 64ページ）。 インターネット経由での機器登録には、ドメイン名またはIPアドレス、ポート番号、登録用パスワードが必要です。ベースステーションの設定画面か、ベースステーション（LF-PK20）付属の「かんたん準備ガイド」のシールの記載をご覧ください。 ベースステーションのNetAVテストは成功していますか？（LF-PK1をお使いの場合はかんたん設定が必要です。）詳しくは、ベースステーションの取扱説明書をご覧ください。
映像が止まったり、コマ落ちしたりする。	<ul style="list-style-type: none"> NetAVはインターネットを利用して通信を行いますので、回線の混み具合によっては、映像をスムーズに送受信できない場合があります。 オプション画面で、レートが自動になっていることを確認してください。手動の場合はレートを下げてください（☞ 54ページ）。

症状	対処のしかた
操作に遅延がある。	<ul style="list-style-type: none"> ● チャンネル切り換えや画面上のリモコン操作をネットワークを經由して行うため、反応するまで遅延が生じますが、仕様であり、故障ではありません。 ● 実際の回線速度に対してレートが高すぎる場合は、さらに遅延が発生している可能性があります。 オプション画面でレートを自動に設定するか、手動の場合はレートを下げてみてください（☞ 54 ページ）。
映像が見れない。	<p>家の中では映っていたが、外出先からは映らない</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ベースステーションのNetAVテストは成功していますか？（LF-PK1をお使いの場合は、かんたん設定が必要です。）詳しくは、ベースステーションの取扱説明書をご覧ください。 ● ベースステーション登録リスト画面で、接続したいベースステーションを選んで、[接続]を選びましたか（☞ 75 ページ）？ ● インターネット回線の推奨速度は上り下り 300 kbps 以上です。お使いの回線をご確認ください。 ● 公衆無線 LAN やホテルなどでインターネットに接続するためのブラウザでの認証には対応していません。PC などのブラウザで認証してから、お試しください。
接続が突然切れる。	<ul style="list-style-type: none"> ● インターネット回線の状況により、接続が切断されることがあります。

ベースステーションの設定を変更する(ワイヤレスチャンネルの変更)

TV ボックスからベースステーションのワイヤレスチャンネルを変更することができます。

症状	対処のしかた
設定画面が開けない。	<ul style="list-style-type: none"> ● ベースステーションとパソコンが同じ LAN 上にないときは、設定画面は開けません。 ● ワイヤレス LAN 接続でつながっている場合は、そのベースステーションの SSID と正しくつながっているか確認してください（☞ 68 ページ）。 ● ルーター経由でつながっている場合は、ケーブルや IP アドレスの接続環境を確認してください（☞ 66 ページ）。

症状	対処のしかた
設定画面を開くためのユーザー名、パスワードが認証されない。	<ul style="list-style-type: none"> ● アルファベットの太文字、小文字は合っていますか？ 太文字、小文字は区別されます。 ● ユーザー名は正しいですか？ ユーザー名はlfx（小文字）です。 ● パスワードは正しいですか？ 初期パスワードはベースステーションの側面のシール上に記載されています。
設定画面を開くためのパスワードを忘れてしまった。	<ul style="list-style-type: none"> ● 初期パスワードはベースステーションの側面のシール上に記載されています。 ● 自分で変更したパスワードを忘れた場合は、ベースステーションの初期化が必要です。 初期化後はベースステーションの側面のシール上に記載された初期パスワードを入力してください。

テレビ/ビデオ共通

症状	対処のしかた
なにも表示されない。	<ul style="list-style-type: none"> ● お使いのテレビとTVボックスは、映像・音声コードやS映像コードで直接つながっていますか（㊚ 30ページ）？ ● テレビの入力を、TVボックスをつないだ入力に切り換えていますか？ ● ベースステーションとテレビアンテナ、外部入力機器は正しく接続されていますか？ 詳しくは、ベースステーションに付属の取扱説明書をご覧ください。
色がつかない、おかしい。	<ul style="list-style-type: none"> ● お使いのテレビとTVボックスは、映像・音声コードやS映像コードで直接つながっていますか（㊚ 30ページ）？ ● ベースステーションとテレビアンテナ、外部入力機器は正しく接続されていますか？ 詳しくは、ベースステーションに付属の取扱説明書をご覧ください。
画像は出るが音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ● TVボックスをつないだテレビの音量が下がりがきいていないか、消音になっていないか確認してください。 ● TVボックスをつないだテレビにヘッドホンがつながっていませんか？ ● ベースステーションとテレビアンテナ、外部入力機器は正しく接続されていますか？ 詳しくは、ベースステーションに付属の取扱説明書をご覧ください。
ブロック状に見えることがある。	<ul style="list-style-type: none"> ● 画像処理によるもので、故障ではありません。

テレビ画像がでない

症状	対処のしかた
テレビのチャンネルが1つも映らない。 (砂嵐のような画面が表示される)	<ul style="list-style-type: none">アンテナ接続ケーブルをベースステーションにしっかりつないでください。チャンネル設定画面で、もう一度受信チャンネルの自動設定（スキャンする）をしてください（㊚ 80ページ）。
特定のチャンネルだけが映らない。 ケーブルテレビのチャンネルが正しく映らない。	<ul style="list-style-type: none">チャンネル設定画面で、受信チャンネルを変更してください（㊚ 80ページ）。TVボックスでは、C13～C63チャンネルに対応しています。それ以外のチャンネルやスクランブルがかかっているチャンネルをご覧になりたいときは、ホームターミナルをベースステーションの入力端子に接続してください。
画像が二重三重になる。	<ul style="list-style-type: none">ベースステーションとテレビアンテナは正しく接続されていますか？詳しくは、ベースステーションに付属の取扱説明書をご覧ください。
雪が降るような画面、薄い画面が表示される。	<ul style="list-style-type: none">アンテナがこわれていたり曲がったりしていないか確認してください。ベースステーションとテレビアンテナは正しく接続されていますか？詳しくは、ベースステーションに付属の取扱説明書をご覧ください。現在放送中のチャンネルを選んでいるか確認してください。
縞状のノイズが多い/雑音が多い。	<ul style="list-style-type: none">ベースステーションとテレビアンテナは正しく接続されていますか？詳しくは、ベースステーションに付属の取扱説明書をご覧ください。アンテナ接続ケーブルは、他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。

ビデオ

症状	対処のしかた
ベースステーションとつないだ外部入力機器の画像が出ない。	<ul style="list-style-type: none">お使いのテレビとTVボックスは、映像・音声コードやS映像コードで直接つながれていますか（㊚ 30ページ）？テレビの入力を、TVボックスをつないだ入力に切り換えていますか？ベースステーションと外部入力機器は正しく接続されていますか？詳しくは、ベースステーションに付属の取扱説明書をご覧ください。正しい入力端子に接続されているか、確認してください。外部入力機器の電源を確認してください。

症状	対処のしかた
画面上のリモコンで操作できない。	<ul style="list-style-type: none"> ● AVマウスをベースステーションのAV マウス端子に正しくつないでください。 ● AVマウスがリモコン受光部に向けて正しく設置されているか確認してください。 ● リモコン受光部の近くに蛍光灯や太陽光などの強い照明が当たっているときは、離して置いてください。 ● 電波状態が悪いとき、正しく動作しないことがあります。 ● つないだ機器本体のボタンを使って操作できるか確認してみてください。または、リモコンの設定をやり直してください（☞ 80ページ）。 <p>（画面上のリモコンで操作できない機種や一部機能が操作できない機種もあります。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ビデオ入力の設定画面で「ビデオ入力1」または「ビデオ入力2」のリモコンが正しく設定されていますか（☞ 39ページ）？ <p>動作確認済み機種については、ロケーションフリーのホームページの「Q&A」（http://www.sony.co.jp/locationfree/QA/）をご覧ください。</p>
外部入力機器付属のリモコンで操作ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 外部入力機器付属のリモコンを、TVボックスのリモコン受光部に向けて操作していますか（☞ 53ページ）？ ● ビデオ入力の設定画面で「ビデオ入力1」または「ビデオ入力2」のリモコンが正しく設定されていますか（☞ 39ページ）？ ● ビデオ入力の設定画面で、[直接操作を有効にする]のチェックボックスがついていますか（☞ 39ページ）？

- インターネットの接続についてのご質問は、ご利用の回線事業者やプロバイダにお問い合わせください。
- よくある質問についてのページ <http://www.sony.co.jp/locationfree/QA/>

保証書とアフターサービス

本機の保証書およびアフターサービスは日本国内においてのみ有効です。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障がどうかをお調べください。

それでも具合の悪いときはロケーションフリーカスタマーサポートセンターへ

ロケーションフリーカスタマーサポートセンター（裏表紙）にご相談ください。
インターネットの接続については、ご利用の回線事業者またはプロバイダにお問い合わせください。

修理について

当社では、当社指定業者がお客様宅にうかがい、TVボックス、ACパワーアダプターを合わせて引取修理します。

修理完了後に、再度お届けします。詳しくは、本取扱説明書裏表紙の「ご案内」をご覧ください。なお、修理の際にユーザー情報、各種設定の他、全てのデータが消えてしまう恐れがありますので、必要な情報は控えておくようにしてください。

なお、修理・点検の際、不具合症状の発生・改善などの確認のために必要最小限の範囲で本機のデータを確認することがあります。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により日本国内にて有料で修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、ロケーションフリーカスタマーサポートセンター（裏表紙）にご相談ください。

部品の交換について

この商品は修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。また、交換した部品を回収させていただきます。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

型名： LF-BOX1
製造番号： TVボックス裏面または保証書に記載されています
故障の状態： できるだけくわしく
購入年月日：

お買い上げ店

TEL.

Warranty and customer support are provided for customers in Japan only. This product is designed for Japanese broadcasting standards and cannot be used in any other country.

主な仕様

システム

出力方式 NTSC/PAL 方式切換

入出力端子

ビデオ出力端子

S映像 : 4ピンミニDIN
Y : 1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
C : 0.286 Vp-p (バースト信号)、75 Ω
映像 : ピンジャック、1 Vp-p、75 Ω、不平衡、同期負
音声 : ピンジャック、2チャンネル、2 Vrms、インピーダンス 1 kΩ

DC IN端子

DC (12 V)

LAN端子

10BASE-T/100BASE-TX、RJ45コネクター (1)

電源部・その他

消費電力

約 10 W
約 1 W
(電源スタンバイ時)

動作温度

0 °C ~ 35 °C

保存温度

-10 ° C ~ + 60 ° C

最大外形寸法

約 165 × 198 × 85

(スタンド付き)

(mm)
(幅 × 高さ × 奥行き、最大突起部含まず)

質量

約 430 g

(スタンド付き)

準拠規格

IEEE802.11 a/b/g

使用周波数帯

2.4 GHz帯 : 1-11ch
5 GHz帯 :
36, 40, 44, 48ch
(W52)
52, 56, 60, 64ch
(W53)

変調方式

DS-SS/OFDM

電源

ACパワーアダプター使用時 : 100V、50/60Hz

付属品

- ACパワーアダプター (1)
- 電源コード (1)
- スタンド (1)
- 映像・音声コード (1)
- リモコン (1)
- 取扱説明書 (1)
- かんたん準備ガイド (1)
- 「使用上のご注意」シール (1)
- 保証書 (1)

その他

索引

D

DHCP 66

L

LAN 端子 24

LAN (有線LAN) ランプ
..... 23

M

MAC アドレス 66

N

NetAV

NetAV 接続/切断
..... 57

NetAV とは 22

P

PAL/NTSC 切り換えス
イッチ 24

S

SSID 70

T

TV ボックス 21, 23

TV ボックスの IP アドレス
..... 66

W

WEP 70, 71

WIRELESS (ワイヤレス
LAN) ランプ 23

WPA-PSK AES

..... 70, 71

WPA-PSK TKIP

..... 70, 71

あ

アクセスポイント 68

暗号鍵 70, 71

い

インターネット経由で接続
する 64, 73

お

オプション 42

NetAV 接続/切断

..... 57

画質優先 56

画面リモコン位置

(左) / (右) 55

通信優先 56

二重音声 54

レート変更 54

オプションボタン 25

か

カーソルリモコン 52

カーソルリモコンボタン

..... 25

回線設定 66

各部の名前とはたらき

TV ボックス 23

リモコン 25

画質優先 56

画面表示 44

画面表示ボタン 25

画面リモコン 51

画面リモコン位置

(左) / (右) 55

画面リモコンボタン 25

き

機器付属のリモコンで直接
操作する 39, 53

こ

故障かな? と思ったら
..... 83

し

自己診断表示 82

事前共有鍵 70, 71

自動AP接続 70

仕様 91

せ

接続

AC パワーアダプター
..... 31

インターネット
..... 64, 73

テレビ 30

電源コード 31

ベースステーション
..... 60

有線 (LAN ケーブル)
..... 62

ワイヤレスルーター
..... 63

接続状態アイコン 44

設定画面 43

その他の設定 77

ネットワーク設定
..... 65

ベースステーション設
定 80

ベースステーション登
録リスト 75

設定ボタン 25

そ

その他の設定 77
 初期化 77
 バージョンアップ
 79
 無操作電源オフ 79
 ワイヤレスオフ 78
ソフトウェアキーボード
 58

ち

チャンネルリスト 49

つ

通信優先 57

て

テレビ操作設定 45
テレビ操作ボタン 25
テレビチャンネル
 自動設定 37
 チャンネル設定を変更
 する 40
 チャンネルリスト
 49
電源ボタン 25
電源 (I/O) ランプ 23

に

二重音声 54
入力切替ボタン 25

ね

ネットワーク設定 65
 有線LAN 66
 ワイヤレスAP選択
 68
 ワイヤレスLAN... 66

は

バージョンアップ 79

ひ

ビデオ
 機器付属のリモコンで
 直接操作する ... 53
 ビデオ入力..... 50

へ

ベースステーション
 IPアドレス ... 74, 76
 TVボックスを登録す
 る 35, 75
 設定 80
 セットアップモード
 33
 登録パスワード ... 74
 ドメイン名.... 74, 76
 ポート番号.... 74, 76
ベースステーション登録リ
 スト 75

む

無線LAN 63

ゆ

有線LAN 62

り

リモコン 25

る

ルーター 60

れ

レート変更 54

ろ

ロケーションフリー 20

わ

ワイヤレスルーター 63

商標などについて

- “LocationFree（ロケーションフリー）” はソニー株式会社の登録商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。
なお、本文中では ™、® マークは明記していません。

ソフトウェアに関する重要なお知らせ

この度は弊社製ロケーションフリー TVボックスLF-BOX1（以下「本製品」とします）をお買い上げいただきありがとうございます。

本製品のご使用を開始される前に必ず、本製品に含まれるソフトウェアに関するこのお知らせをお読みください。

お客様による本製品の使用開始をもって、このお知らせの内容をご確認の上、ご同意いただけたものとさせていただきます。

ソフトウェア使用許諾契約書

本製品に含まれるソフトウェア（以下「許諾ソフトウェア」とします）につきまして、下記のソフト使用許諾書をお読み下さい。

尚、本製品には、「許諾ソフトウェア」には含まれず、下記ソフトウェア使用許諾契約書の対象とはならないソフトウェアが含まれております。かかるソフトウェアについては、<http://www.sony.co.jp/locationfree/> をご覧下さい。

ソフトウェア使用許諾契約書

本契約は、お客様（以下お客様とします）とソニー株式会社（以下ソニーとします）との間での許諾ソフトウェア（以下許諾ソフトとします）の使用権の許諾に関する条件を定めるものです。

第1条（総則）

許諾ソフトは、日本国内外の著作権法並びに著作者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他知的財産権に関する法律によって保護されています。許諾ソフトは、本契約の条件に従いソニーからお客様に対して使用許諾されるもので、許諾ソフトの著作権等の知的財産権はお客様に移転いたしません。

第2条（使用権）

1. ソニーは、許諾ソフトの非独占的な使用権をお客様に許諾します。
2. お客様は、許諾ソフトの全部又は一部を複製、複写したり、これに対する修正、追加等の改変をすることができません。

第3条（権利の制限）

1. お客様は、許諾ソフトのみを再使用許諾、貸与又はリースその他の方法で第三者に使用させてはならないものとします。
2. 許諾ソフトは1つのソフトウェアとして、本製品上での使用を条件に許諾されています。お客様は許諾ソフトの全部若しくは一部又はその構成部分を複数の製品での使用のために分離してはならないものとします。
3. お客様は、許諾ソフトを用いて、ソニーの著作権等の権利を侵害する行為を行ってはならないものとします。
4. お客様は、許諾ソフトに関しリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等のソースコード解析作業を行ってはならないものとします。
5. お客様は、本契約に基づいて本製品と一体としてのみお客様の許諾ソフトに関する権利の全てを譲渡することができます。ただしその場合、お客様は許諾ソフトウェアの複製物を保有することはできず、許諾ソフトウェアの一切（すべての構成部分、媒体、マニュアルなどの関連書類、電子文書及び本契約を含みます）を譲渡し、かつ譲受人が本契約の条項に同意することを条件とします。

第4条（許諾ソフトの権利）

許諾ソフトに関する著作権等一切の権利は、ソニー又はソニーが本契約に基づきお客様に対して使用許諾を行うための権利をソニーに認めた原権利者（以下原権利者とします）に帰属するものとし、お客様は許諾ソフトに関して本契約第2条に基づき許諾された使用権以外の権利を有しないものとします。

第5条（責任の範囲）

1. ソニーは、許諾ソフトにエラー、バグ等の不具合がないこと、又は許諾ソフトが中断なく稼動することを保証しません。但し、ソニーは、当該エラー、バグ等の不具合に対応するため、許諾ソフトの一部を書き換えるソフトウェア若しくはバージョンアップの提供による許諾ソフトの修補を行うことがあります。本項に定めるソフトウェア及びバージョンアップの提供方法はソニーがその裁量により定めるものとします。なお、かかる修補又はバージョンアップが行われたソフトウェアについても、特段の定めがない限り本契約の規定が適用されるものとします。
2. ソニーは、許諾ソフトに関連してソニー及び原権利者が第三者の知的財産権を侵害していないことを保証するものではありません。

3. ソニーは、お客様が本契約に基づき許諾された使用权を行使することによりお客様又は第三者に生じた損害に関していかなる責任も負わないものとします。
4. ソニーは、許諾ソフトに関連してソニー又は第三者が提供するサービスの開始又は継続を保証しません。
5. お客様に対するソニーの損害賠償責任は、ソニーによる故意又は重過失の場合を除き、いかなる場合であってもお客様が証明する許諾ソフトの購入代金を上限とします。

第6条（契約の解約）

1. ソニーは、お客様が本契約に定める条項に違反した場合、直ちに本契約を解約することができます。お客様が本契約に定める条項に違反し、ソニーがお客様に本契約解約の通知を送付した場合、お客様が本契約に定める条項に違反したことをソニーが認識した日を以って本契約は終了するものとします（以下契約終了日とします）。
2. 前項の規定により本契約が終了した場合、お客様は速やかに許諾ソフトウェアの使用を中止するものとします。また、お客様は、本契約の終了した日から2週間以内に本製品及び許諾ソフトウェアを廃棄するものとし、ソニーより要求があった場合には、その旨を証明する文書をソニーに差し入れるものとします。

第7条（その他）

1. 本契約は、日本国法に準拠するものとします。
2. お客様は、許諾ソフトを日本国外に持ち出して使用する場合、適用ある国内外の輸出管理規制、法律、命令に従うものとします。
3. 本契約は、消費者契約法を含む消費者保護法規によるお客様の権利を不利益に変更するものではありません。
4. 本契約の一部条項が法律によって無効となった場合でも、当該条項以外は有効に存続するものとします。

本契約に定めなき事項又は本契約の解釈に疑義を生じた場合は、お客様及びソニーは誠意をもって協議し、解決するものとします。

以 上

GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、以下のGNU General Public License（以下「GPL」とします）または、GNU Lesser General Public License（以下「LGPL」とします）の適用を受けるソフトウェアが含まれております。

お客様は添付のGPL/LGPLの条件に従いこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。

ソースコードは、Webでご提供しております。

ダウンロードするには、以下のURLにアクセスしてください。

<http://www.sony.co.jp/locationfree/>

なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.
59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you

these rights or to ask you to surrender the rights.

These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program).

Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other

recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:
 - a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
 - b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
 - c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:
 - a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
 - b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more

than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

- c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License.

Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License.

However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.
6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein.
You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.
7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy

simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus

excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE

COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms. To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

Copyright (C)

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year
name of author Gnomovision comes with
ABSOLUTELY NO WARRANTY; for
details type `show w'. This is free software,
and you are welcome to redistribute it under
certain conditions; type `show c' for details.
The hypothetical commands `show w' and
`show c' should show the appropriate parts of
the General Public License. Of course, the
commands you use may be called something
other than `show w' and `show c'; they could
even be mouse-clicks or menu items--
whatever suits your program.

You should also get your employer (if you
work as a programmer) or your school, if any,
to sign a "copyright disclaimer" for the
program, if necessary. Here is a sample; alter
the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all
copyright interest in the program
`Gnomovision' (which makes passes at
compilers) written by James Hacker.

, 1 April 1989

Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit
incorporating your program into proprietary
programs. If your program is a subroutine
library, you may consider it more useful to
permit linking proprietary applications with
the library. If this is what you want to do, use
the GNU Library General Public License
instead of this License.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.
59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our

General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot

effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free

library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to

the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) The modified work must itself be a software library.
- b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
- d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function

must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that

version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library),

rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by

this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
- b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
- c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for

a charge no more than the cost of performing this distribution.

- d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
- e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

- 7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:
 - a) Accompany the combined library with a copy of the same work based

on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

- b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

- 8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.
- 9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.
- 10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients'

exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version

published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

```
<one line to give the library's name and
an idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>
```

```
This library is free software; you can
redistribute it and/or modify it under the
terms of the GNU Lesser General Public
License as published by the Free
Software Foundation; either version 2.1
of the License, or (at your option) any
later version.
```

```
This library is distributed in the hope that
it will be useful, but WITHOUT ANY
WARRANTY; without even the implied
warranty of MERCHANTABILITY or
FITNESS FOR A PARTICULAR
PURPOSE. See the GNU Lesser General
Public License for more details.
```

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

MD5 - Message Digest

Copyright (C) 1990, RSA Data Security, Inc.
All rights reserved.

License to copy and use this software is granted provided that it is identified as the "RSA Data Security, Inc. MD5 Message Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing this software or this function.

License is also granted to make and use derivative works provided that such works are identified as "derived from the RSA Data Security, Inc. MD5 Message Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing the derived work.

RSA Data Security, Inc. makes no representations concerning either the merchantability of this software or the suitability of this software for any particular purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty of any kind.

These notices must be retained in any copies of any part of this documentation and/or software.

BSD License

Copyright (c) 2001, Dr Brian Gladman
<brg@gladman.uk.net>, Worcester, UK. All rights reserved.

TERMS

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted subject to the following conditions:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The copyright holder's name must not be used to endorse or promote any products derived from this software without his specific prior written permission.

This software is provided 'as is' with no express or implied warranties of correctness or fitness for purpose.

ご案内

本製品に関するお問い合わせは「ロケーションフリーカスタマーサポートセンター」へ

ロケーションフリーカスタマーサポートセンター

● ナビダイヤル..... 0570-05-0005

(全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます)

● 携帯電話・PHSでのご利用は..... 0191-31-8595

受付時間：月～金 午前9時～午後8時

土・日・祝日 午前9時～午後5時

● よくある質問についてのページ <http://www.sony.co.jp/locationfree/QA/>

ケーブルモデムやADSLモデムの設定、インターネットへの接続など、ネットワークへの接続については、ご利用の回線事業者またはプロバイダへお問い合わせください。

万一不具合が生じた場合は

製品の品質には万全を期しておりますが、万一ご使用中に動作しない、記録できないなどの故障が生じた場合は、上記のロケーションフリーカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。修理に関するご案内をさせていただきます。

また修理が必要な場合は、当社指定宅配業者がお客様宅まで伺い、引取修理をさせていただきます。その際には、故障箇所にかかわらず、TVボックスとACパワーアダプターを合わせて、お渡しください。

ロケーションフリーのホームページ

● <http://www.sony.co.jp/locationfree/>

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1